

平成19年度
結婚支援事業の発展の可能性と
結婚促進力の強化
調査研究報告書

少子・家庭政策研究所

まえがき

この報告書は、平成 19 年度において少子・家庭政策研究所が実施しました「結婚支援事業の発展の可能性と結婚促進力の強化」に関する調査研究の成果を取りまとめたものであります。

周知のように、現在、社会問題として少子化の進行が指摘されています。また、その主な要因としては、結婚年齢の高まりが挙げられています。つまり、わが国では未婚のまま子どもを持つ割合が低いため、未婚化・晩婚化の進行は、そのまま少子化を推し進めることにつながるのです。

一方で、国立社会保障・人口問題研究所の『出生動向基本調査』によりますと、男女ともに約 90%の人が「いずれ結婚するつもり」という結婚希望を持っています。また、それにもかかわらず独身でいる理由としては、25 歳未満では「必要性を感じない」「まだ若すぎる」といったことが挙げられているのに対して、25 歳以上になるとおおよそ半数の人が「適当な相手にまだめぐり合わない」ということを挙げています。

こういった社会状況の中、結婚を支援する事業を自治体が始めるという例が各地で相次いでいます。兵庫県では、全国に先駆けて「農山漁村部の男性と都市部などの女性の出会い・交流の場を創出し、縁結びの機会を提供」することを目的とした「このとりの会」が 1999 年から実施されています。また、2006 年からは「『良い出会いがあれば結婚を…』と考えている皆様を応援」する事業として「ひょうご出会いサポート事業」も実施されております。

この報告書では、上記の 2 つの事業に加えて、民間の結婚支援事業や他府県での事例にも目を配りながら、インタビュー調査およびアンケート調査を実施して分析をしています。

そして、こういった事業に対する参加者の意識を明らかにするとともに、事業が持つ課題の指摘およびその解決策の提言を行なっております。結婚に関心を持たれている方はもちろん、自治体・民間を問わず結婚支援事に関与されている方には、ぜひご一読いただきたいと思えます。

この調査では、結婚という非常にプライベートな事柄を扱っているにもかかわらず、多くの方からご協力をいただくことが出来ました。みなさまのご協力なくしては、このような調査研究を行なうことは出来ませんでした。この場をかりて、厚くお礼を申し上げます。

平成 20 年 3 月

少子・家庭政策研究所所長

野々山久也

研究体制

研究責任者	野々山 久 也	少子・家庭政策研究所所長 甲南大学文学部教授
研究者	大 瀧 友 織	少子・家庭政策研究所研究員 関西大学・京都光華女子大学 非常勤講師

目次

はじめに	1
第1章 調査研究の対象と目的.....	2
第1節 結婚支援事業と少子化	2
1. 結婚支援事業の現状.....	2
2. 少子化の進行とその背景	3
第2節 調査研究の目的	4
第3節 調査研究の対象	4
1. 「こうのとりの会」	5
(1) 事業概要・目的.....	5
(2) 会員資格.....	5
(3) 事業の現状	5
2. 「ひょうご出会いサポート事業」	6
(1) 事業概要・目的.....	6
(2) 会員資格.....	7
(3) 事業の現状	7
3. 結婚情報サービス事業（株式会社オーネット）	8
(1) 事業概要・目的.....	8
(2) 会員資格.....	9
(3) 事業の現状	9
第2章 調査研究の概要.....	11
第1節 聞き取り調査について	11
第2節 質問紙調査について.....	12
第3節 本報告書でもちいるその他のデータ	15
1. 交流会の非参与観察.....	15
2. 交流会に関するデータ	15
第3章 結婚支援事業とその受け止め方	16
第1節 交流会について	16
1. 交流会の流れ.....	16
2. プロフィールカード.....	18
第2節 満足度とカップルの成立および成婚	20
1. これまでの交流会概要	20
2. 交流会への満足度	22
第3節 参加者の結婚観	23
1. 結婚に対する意識	23
2. 事業で異なる結婚観.....	25
第4章 結婚支援事業の諸側面.....	29
第1節 交流会参加者の語り	29

1.	「こうのとりの会」会員	29
(1)	aさんの場合	29
(2)	bさんの場合	30
(3)	cさんの場合	31
2.	「出会いサポート」会員	32
(1)	dさんの場合	32
(2)	eさんの場合	33
(3)	fさんの場合	34
3.	民間による結婚支援事業「オーネット」会員	37
(1)	gさんの場合	37
(2)	hさんの場合	38
(3)	iさんの場合	40
(4)	jさんの場合	41
第2節	結婚支援事業の課題	42
1.	抵抗感の問題	42
2.	信頼性・安心感の問題	44
3.	男女の違いの問題	45
4.	参加者から見た運営面の問題	47
第5章	結婚支援事業の今後に向けて	48
第1節	他府県における結婚支援事業	48
1.	静岡県榛原郡川根本町「ちゃつきり娘養成講座」	48
(1)	事業の概要・現状	48
(2)	事業の特徴	48
2.	長崎県「ながさきめぐりあい事業」	52
(1)	事業の概要・現状	52
(2)	事業の特徴	52
3.	岡山県「1000人が出会う Hey! Say! Cafe!」	53
(1)	事業の概要・現状	53
(2)	事業の特徴	54
第2節	結婚支援事業の今後に向けての提言	54
1.	「結婚支援を主眼としない」結婚支援	55
2.	信頼性・安心感の確保	56
3.	農山漁村部の男性にとって得意分野をいかせるイベント	57
4.	運営上の工夫の必要性	59
おわりに		60
◆	参考・引用文献	62
資料編		63
◆	単純集計結果	64
◆	質問紙調査の自由記述	74
◆	調査票	80

はじめに

兵庫県では、過疎対策を主要な目的とした「このとりの会」事業と、少子化対策としての「ひょうご出会いサポート事業」という、2つの結婚支援事業が実施されている。

現在、同様の事業は他府県でもおこなわれているが、特に前者は他府県に先んじて1999年から始まっており、成婚カップル数93組（2008年3月末現在、兵庫県青少年本部に報告のあったもののみ）という実績を残している。

本調査研究の目的は、兵庫県が実施している両事業と民間の結婚支援事業を対象として、聞き取り調査および質問紙調査を実施し、結婚支援事業が持つ意義や課題、事業の発展可能性を探ることである。民間によるさまざまな結婚支援事業が実施されているなか、公の機関が事業に携わることの意義や、公と民でどのような違いがあるのかを明らかにする。

第1章では、結婚支援事業への注目が高まっている背景および本報告書の目的、対象とする事業の概要について述べる。

第2章では、実施した質問紙調査および聞き取り調査について説明するとともに、本報告書でもちいるその他のデータについて示す。

第3章では、結婚支援事業としておこなわれているイベントの概要について述べた上で、主に質問紙調査の結果から事業への満足度や結婚観について検討する。

第4章では、主に聞き取り調査の結果から、こういった事業に対する参加者の意識や、事業が抱える課題を明らかにする。

第5章では、他府県における事例を紹介するとともに、ここまでの調査結果を概観し、結婚支援事業の今後に向けての提言をおこなう。

第1章 調査研究の対象と目的

第1節 結婚支援事業と少子化

1. 結婚支援事業の現状

結婚を支援する事業への注目が高まっている。たとえば、経済産業省は「新たな社会的機能としての結婚産業の在り方を検討する」ために、「少子化時代の結婚関連産業の在り方に関する研究会」を発足させた。

研究会は、結婚支援事業が抱える課題の1つとしてネガティブイメージの払拭を挙げている。具体的には、日本民間放送連盟の自主規制により禁止されているテレビ・コマーシャルが解禁されれば、業界のイメージが変わっていく可能性があると指摘している（経済産業省商務情報政策局サービス産業課 2006: 33）。

また、財団法人こども未来財団は、全国 3186 自治体の首長を対象とする調査（回収率：70.7%）を実施している。その結果、47.8%が自治体の状況から必要と思えば、未婚率上昇への対応策としての結婚支援を実施すべきだと答えている（財団法人こども未来財団 2005:14-15）。

そして実際に、おおよそ半数の自治体では「結婚相談員」「結婚祝い」「出会い事業」「結婚講座」等の結婚支援を実施している。次の図は人口規模別に結婚支援事業の実施状況を示したものである。人口規模の大きい自治体では約4割となっているものの、規模が1万人未満の自治体においては6割以上が何らかの結婚支援事業をおこなっていることが分かる。

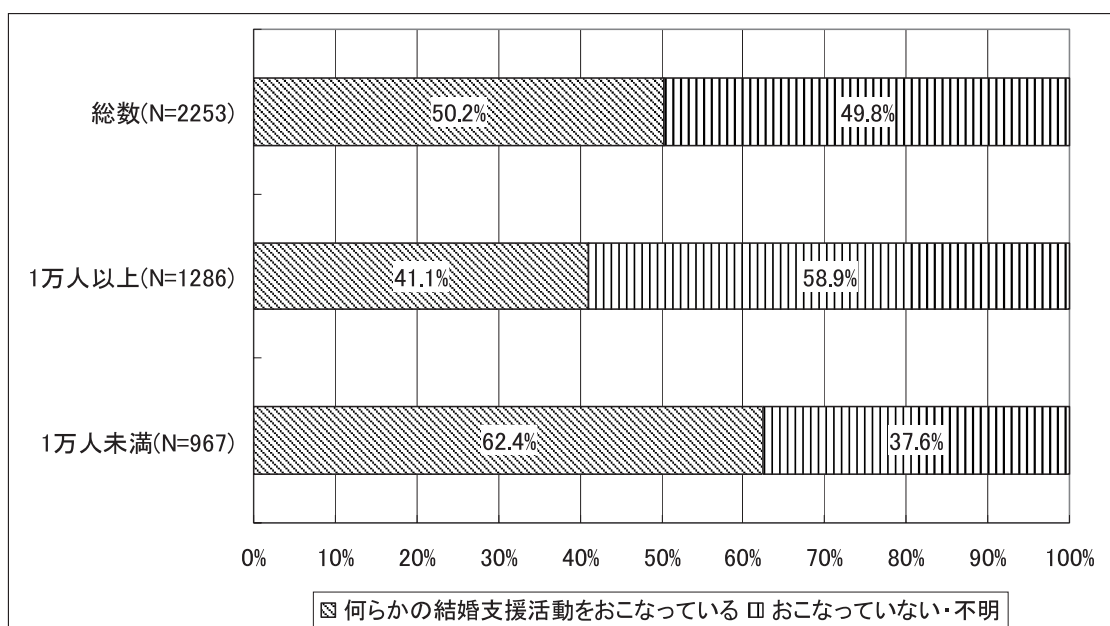


図1 「結婚支援事業」の実施状況（財団法人こども未来財団 2005: 66）

また約3割の自治体は、「結婚相談員」「結婚祝い」「結婚講座」といった、いわば「間接的」な結婚支援ではなく、「出会い事業」という形で出会いの場を提供し結婚するカップルを増やそうとする、直接的な結婚支援事業を実施している（財団法人こども未来財団 2005:19）。実施されている「出会い事業」の種類は以下の図の通りである。

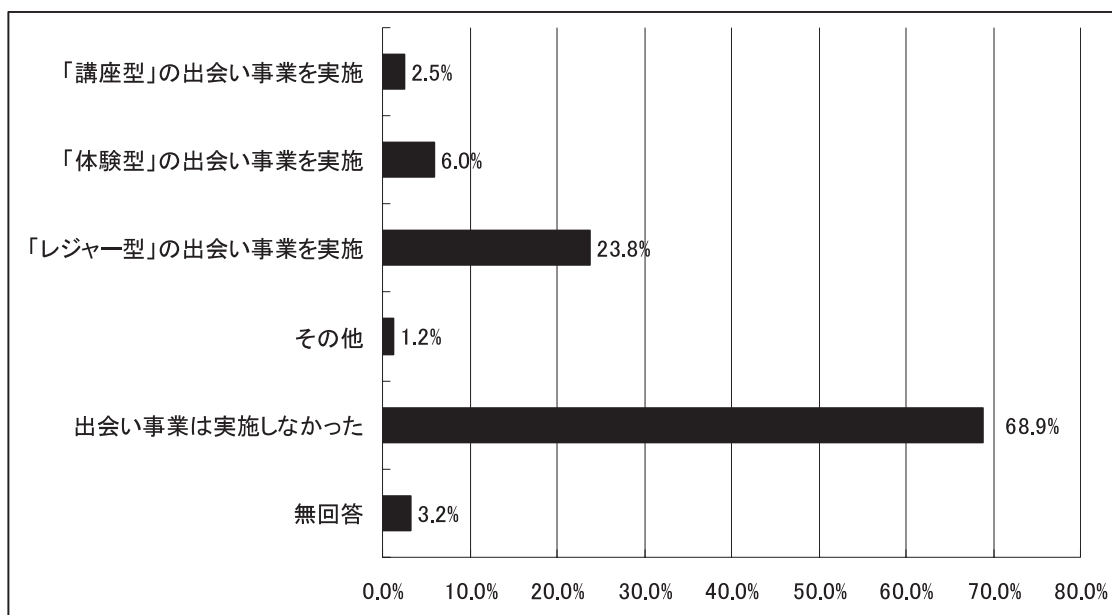


図2 「出会い事業」の実施状況 (N=2253) ¹ (財団法人こども未来財団 2005: 19)

上記の調査研究が、いずれも少子化との関連で結婚産業・出会い事業について報告されていることから明らかなように、こういった事業に対する関心が高まり、経済産業省や自治体が後押しする背景には、少子化問題がある。

2. 少子化の進行とその背景

少子化対策として、結婚支援事業が実施されることには、理由がないわけではない。岩澤美帆は1975年以降の出生率低下の7割が、結婚行動の変化、つまり未婚化・晩婚化の進行によるものであると指摘している。加えて、70年代以降の初婚率の低下について、約5割が見合い結婚の減少、約4割が職縁結婚の減少によって説明出来ることを示している。

すなわち、学校での出会いや友人・知人を介しての出会い、趣味を通じた出会い、街中での出会いによる結婚の発生確率は、40年間ほぼ変わっていない。したがって、見合い結婚から恋愛結婚への流れのなかで、「1970年代前半に隆盛を誇った企業社会によ

¹ 質問文は「貴自治体では、昨年度に、以下のような、いわゆる『出会い事業』を実施しましたか（おはいくつでも）」となっている。「『レジャー型』の出会い事業」とは、パーティ・スポーツ・レクや旅行等、「『体験型』の出会い事業」とは地域産業を生かしたもの、「『講座型』の出会い事業」とは結婚観や生き方の話し合いなどと定義されている。

るマッチング・システムの弱体化によって、その分だけ結婚が減少」したと考えることが出来るという（岩澤 2005: 26）。

こういった状況において、「少子化時代の結婚関連産業の在り方に関する研究会」は「伝統的に結婚を促進する機能を担ってきた家族や地域、職場に替わって、新たに若年層の結婚を支援する産業、特に結婚相談業・結婚情報サービス業を中心に、その社会的機能の明確化と活性化を促すことが重要」と述べている（経済産業省商務情報政策局サービス産業課 2006: 1）。そこで、結婚を支援する事業がどのように受け止められているのか、また結婚支援事業の在り方や課題、これからについて検討することが必要になる。

第2節 調査研究の目的

本調査研究の目的は、結婚支援事業が持つ意義、影響、およびその在り方や課題を検討することで、こういった事業の発展可能性を探ることである。そのために、次の2点について考察する。

第一に、会員が抱えている結婚および結婚支援事業へのイメージを明らかにする。結婚支援事業のなかでも、直接的にカップルの形成・結婚を支援する「出会い事業」を中心として検討する。出会い事業と一口に言っても、さまざまな形態が存在しているが、形態によって会員の印象やイメージは異なるのだろうか。また、そういった結婚支援事業の捉え方は、会員が持つ恋愛観・結婚観とどのような関係にあるのだろうか。

第二に、会員のみでなく事業者についても検討することで、両者の間に何らかのズレは生じているのか、またそこにどのような課題が存在しているのかを明らかにする。すでに見たように、業界が持つネガティブイメージを払拭することが、結婚産業の抱える課題として挙げられていた（経済産業省商務情報政策局サービス産業課 2006: 33）。

そこで、会員たちが求めているものと、事業者が提供しているものとの間に、どのようなズレがあるのかを明らかにすることで、ネガティブイメージの背景を探る。

以上の2点を明らかにすることで、見合い結婚や職縁結婚に成り代わるマッチング・システムとしての可能性について検討する。

第3節 調査研究の対象

本節では、本調査の対象となる出会い事業の概要について、触れておく。本調査研究では、以下の結婚支援事業を対象とする。①「こののどりの会」、②「ひょうご出会いサポート事業」、そして比較対象として③結婚情報サービス「オーネット」の会員にも聞き取り調査をおこなう。

以下は各事業の概要である。

1. 「こうのとりの会」

(1) 事業概要・目的

「こうのとりの会」は、「豊かな自然環境の中での暮らしを希望する男性と女性が、出会えるきっかけをつくる事を目的とした事業」であり（兵庫県生活文化部「こうのとりの会」事務局 1999）、会の概要として①農山漁村部の自然や暮らし、文化などの良さを伝え、魅力あるコミュニティづくりを進めること、②農山漁村部の男性と都市部などの女性との出会い・交流の場を創出し、縁結びの機会を提供すること、③農山漁村部の豊かな自然環境のなかでの新しいライフスタイルづくりを支援することの3点を挙げている（(財)兵庫県青少年本部内「こうのとりの会」事務局 2008）。

この事業は1999年10月から始められており、当時の新聞には「県がお見合い事業をスタート」といった見出しで報道されている。新聞では「お見合い事業」として紹介されたが、実際には過疎化対策事業であり、「農山漁村部の男性と都市部などの女性との出会いの場を提供する交流事業」となっている（(財)21世紀ヒューマンケア研究機構家庭問題研究所 2005）。

(2) 会員資格

会員になるためには、会員申込書に身分証明書の写しを添付し、持参もしくは郵送で申し込む必要がある。ただし、過疎対策という目的を持っているため、会員資格は以下のように設定されている。

次のすべての条件に該当する人です。

- ① 20歳以上の独身の男女。（ただし、未成年でも親権者の同意があれば入会できます）
- ② 日本在住の人。ただし、男性は主として兵庫県内の農山漁村部にお住まいの人とする。
- ③ 兵庫県内の農山漁村部での暮らしに関心があり、明日のふるさとづくりをめざす人。
- ④ 当会の趣旨に賛同し、相手を思いやり、誠意ある行動ができる人。

（(財)兵庫県青少年本部内「こうのとりの会」事務局 2008）

(3) 事業の現状

「こうのとりの会」では、ミニ交流会や地域交流会、相談サービス・情報提供などの事業を実施している。ミニ交流会は、神戸市内など主に都市部で開催されるもので、年齢別、趣味別など少人数でおこなうものである。地域交流会は「農山漁村部地域の魅力を都市部の女性にアピールし、各市町・団体が開催される交流会への参加につなげるため、各地域の特性を活かした」形で実施される（(財)兵庫県青少年本部内「こうのとりの会」事務局 2008）。

「こうのとりの会」には、男性で約1500名、女性では約1600名の会員がおり、こ

れまでに 200 回を越える交流会を開催している。しかし、事業関係者への聞き取り調査によると、予算上の問題から、事業に関わる人員の削減および交流会開催数は減少しているという。

交流会への参加希望者は、女性に比べて男性が多くなっている。参加者数を参加希望者数で割った倍率は、おおよそ男性で 1.8 倍、女性では 1.3 倍となっており、男性の方がより参加が難しい状況である。表 1 は、2007 年度の交流会開催数（ミニ交流会および地域交流会）、交流会への参加者数（延べ人数）、交流会における成立カップル数を示したものである。

表 1：「こうのとりの会」の状況（2007 年度実績）

交流会開催数		11 回
参加者数(延べ人数)	男性	243 名
	女性	234 名
カップル成立数		41 組

1999 年 10 月からの実績としては、カップル成立数は約 580 組で、成婚数は 93 組となっている。しかし、行財政改革による事業の見直しによって、2008 年 4 月以降は「ひょうご出会いサポートセンター」との一体化運営となり、「こうのとりの会」による交流会事業の実施回数は、さらに少なくなる。

2. 「ひょうご出会いサポート事業」

(1) 事業概要・目的

「ひょうご出会いサポート事業」（以下、「出会いサポート」と示す）とは、「少子化対策の一環として、仕事等が忙しくて、なかなか出会いの機会のない独身男女の新たな出会いを支援する」ものである（ひょうご出会いサポートセンター 2008）。

事業自体は、2006 年 6 月から始められており、同年 8 月より交流会が実施されている。「こうのとりの会」が過疎対策に重きを置いていたのに対して、「出会いサポート」は少子化対策を主目的としている。

実施主体である「ひょうご出会いサポートセンター」は、協賛団体を募集しており、会員と協賛団体の橋渡しすることで、出会いの機会を支援するという。協賛団体とは、「結婚の意志はあるがなかなか素敵な方と出会うチャンスがないという方々に、出会いの場を提供し、結婚を応援していただく団体」とされており、具体的には以下のような事業として位置づけられている。

県内の企業や自治体などの団体ごとに会員登録いただき、協賛団体であるホテル、レストラン、旅行代理店、NPO 等が企画・実施する「出会いの場」のイベント情報をパソコンの電子メールによりご提供いたします。また、会員団体同士の「職場交流

会」の開催を支援いたします（ひょうご出会いサポートセンター 2008）。

(2) 会員資格

「出会いサポート」で実施される交流イベントに参加するためには、会員もしくは準会員となる必要がある。

ある団体（企業・団体もしくはその内部組織）が、「ひょうご出会いサポートセンター」に会員団体として登録している場合、その団体に所属する人は会員となる。会員団体とは、「独身の男女の方々に、出会いの場の情報を周知し、また出会いの場への参加を促進、支援していただくとともに、他の会員団体と連携して、出会い・交流の場の提供をしていただく団体」である。

このように法人等での登録形式をとるのは、「企業等の協力のもとに社会全体で結婚を応援し、少子化に歯止めをかける取り組みを進めるとともに、イベント参加者の安心感に加え、不要なトラブルを防止しやすいとの判断」からであるという（ひょうご出会いサポートセンター 2008）。

ただし、会員団体未加入の企業や個人事業者からの参加希望を受けて、準会員制度が創設された。そして現在では、交流会の参加者は、本来の対象であった正会員（団体会員）より、むしろ準会員の方が多くなっている。

準会員となるためには、申込用紙の他、自身が被保険者本人となっている健康保険証（もしくは、免許証等）、認め印、パソコンのメールアドレスを記したメモを、直接「ひょうご出会いサポートセンター」まで持参する必要がある。

申込用紙には、職業を記載するとともに、記載事項に相違がない旨、署名・捺印をする。また、準会員の登録要件は次のように設定されている。

- ① 兵庫県の少子化対策の趣旨にご理解のある方、又ご協力いただける方。
- ② 兵庫県に在住でお仕事をされている、もしくは県外在住で兵庫県内でお仕事をされている独身男女の方。
- ③ パソコンの E-mail アドレスをお持ちの方。（携帯電話は不可）
- ④ 登録申請書を必ずご本人が当センターまで持参できる方。

（ひょうご出会いサポートセンター 2008）

「このとりの会」との違いとしては、農山漁村部の男性に限定しない点の他、仕事を持っていないならば参加出来ない点、入会に際して直接「出会いサポートセンター」に行かなければならない点、パソコンのメールアドレスが必要になる点などが挙げられる。

(3) 事業の現状

「出会いサポート」は、農山漁村部の男性に限定していない関係もあり、主に都市部（特に神戸市内）で開催されることが多い。交流会の内容としては、立食パーティやバ

ーベキューパーティ、船上パーティ、テニススクール、陶芸体験、演劇鑑賞など多岐にわたる。

「ひょうご出会いサポートセンター」は、協賛団体によって司会進行されることが本来の形であるとしている。しかし、人員的・経験的な条件等により、協賛団体は場所を提供し、サポートセンターのスタッフによって司会進行がなされる場合もある。ただし「ひょうご出会いサポートセンター」のスタッフによると、基本的に先行していた「こうのとりの会」のやり方を踏襲しており、ほぼ同じようなシステムで実施されている。

表 2 は、2007 年度の交流会開催数、交流会への参加者数、交流会における成立カップル数を示したものである。また、「出会いサポート」では、「こうのとりの会」と異なり、参加希望者は女性の方が多くなっているという。ただし、ここで重要な点は、「こうのとりの会」および「出会いサポート」のどちらの交流会においても、参加希望者数が参加定員を上回っているということだろう。

表 2：ひょうご出会いサポート事業の状況（2007 年度実績）

交流会開催数		107 回※
参加者数(延べ人数)	男性	2281 名
	女性	2265 名
カップル成立数		617 組

※1 日複数回の交流会が開かれた場合は各々を別にカウントした

2006 年 6 月から実施されている「出会いサポート」では、事務局に連絡があったもののみで、これまでに 5 組のカップルが成婚に至っている。

3. 結婚情報サービス事業（株式会社オーネット）

(1) 事業概要・目的

株式会社オーネット（以下、「オーネット」と示す）は、1980 年に株式会社オーエムエムジーとして設立され、1988 年には全県への支社網を完成させている。また、1989 年には会員数が 6 万人を突破して業界トップとなり、2007 年 12 月より株式会社オーネットに事業継承し、現在に至っている。

「オーネット」によると、創立時には「日本の家庭基盤充実」を掲げており、「人生における理想的なパートナーとのめぐり会いから成婚、家族形成までのサービス事業」に取り組んできた。

「出会いと幸せ」を結ぶことが目的とされており、「こうのとりの会」や「出会いサポート」と比較しても、より結婚が前面に出されていると言える。

(2) 会員資格

「オーネット」に入会するためには、入会申込書の提出および会費の納入の他、入会審査書類を提出する必要がある。審査書類としては、3ヶ月以内に発行された公的に独身を証明する書類、最終学歴を証明する書類、有職であることを証明する勤務先発行の身分証明書もしくは健康保険証等が挙げられている。

また、入会資格として次の4点を挙げている。

- ① 独身であること。
- ② 男性は20歳以上で、定職・定収入があること。
- ③ 女性は18歳以上であること。
- ④ 条件によるマッチング人数が紹介基準人数を上回ること。

身分証明書が必要という点で「こうのとりの会」および「出会いサポート」と、有職であることを示す本人が被保険者となっている健康保険証（もしくは、免許証等）が必要という点で「出会いサポート」と同様である。しかし、学歴や独身であることを証明する書類が必要であり、会員になるための基準がより厳しいものとなっていることが分かる。

(3) 事業の現状

「こうのとりの会」や「出会いサポート」が交流会を実施することで出会いの機会を提供しているのに対して、「オーネット」は総合的な結婚情報サービスである。交流イベントの他に、データによるマッチングや会員のプロフィールが掲載される冊子『イントロG』など、さまざまなオプションが用意されている。

したがって、「こうのとりの会」および「出会いサポート」を、「オーネット」と単純に比較することは出来ない。ただし、「オーネット」においても成婚退会者に占める、出会いの在り方が変化してきており、メインとなっているデータマッチングによる成婚が、おおよそ7割から5割へと減少する一方で、イベントによる交際・成婚が多くなってきているという。

次に示しているのは、2007年1月末現在における会員数、入会者数、イベント開催数、イベントへの参加者数、イベントを含む「オーネット」会員同士による成婚退会者数である。

表 3 : 「オーネット」の状況 (2008年1月現在)

会員数	男性	23,311名
	女性	27,829名
年間入会者数		21,633名※
イベント開催数		2,130回※
イベント参加者数(延べ人数)		52,526名※
成婚退会者数		3,868名※
※2007年1月～12月実績		

第2章 調査研究の概要

本調査研究では、聞き取り調査（結婚支援事業への参加者10名、事業者9名）および質問紙調査（「こうのとりの会」「出会いサポート」の交流会参加者）を実施した。調査の概要は以下の通りである。

第1節 聞き取り調査について

【調査手法】個別面接調査法。原則として、調査員が調査対象者一人と直接面接する形で実施した。

【対象者】「こうのとりの会」、「出会いサポート」、民間結婚支援事業「株式会社オーネット」の会員および各事業におけるアドバイザー等の担当者。

【所要時間】1件のインタビューに要した時間はおおよそ60～90分である²。

【調査期間】2007年10月下旬から2008年1月下旬

表4および表5では、聞き取り調査の対象者を示している。

表4：聞き取り調査対象者（結婚支援事業・参加者）

対象者	事業の種類	性別	年代
a氏	こうのとりの会	女性	—
b氏	こうのとりの会	女性	20代後半
c氏	こうのとりの会・出会いサポート	女性	30代後半
d氏	出会いサポート	女性	30代前半
e氏	出会いサポート	女性	30代後半
f氏	出会いサポート	女性	30代後半
g氏	民間結婚支援事業「オーネット」	男性	20代後半
h氏	民間結婚支援事業「オーネット」	女性	20代後半
i氏	民間結婚支援事業「オーネット」	女性	30代後半
j氏	民間結婚支援事業「オーネット」	男性	20代後半

² ただし、結婚支援事業参加者のaさんのみ、イベント開始前に調査を実施した関係から、約20分間の聞き取り調査となった。

表 5：聞き取り調査対象者（結婚支援事業・事業者）

対象者	事業の種類	性別	年代
A 氏	こうのとりの会	男性	——
B 氏	こうのとりの会	女性	40 代前半
C 氏	こうのとりの会	女性	——
D 氏	出会いサポート(協賛団体)	男性	30 代後半
E 氏	出会いサポート	女性	30 代前半
F 氏	出会いサポート(以前、「こうのとりの会」に関与)	女性	50 代後半
G 氏	民間結婚支援事業「オーネット」	女性	50 代後半
H 氏	民間結婚支援事業「オーネット」	女性	60 代
I 氏	民間結婚支援事業「オーネット」	女性	40 代

第 2 節 質問紙調査について

【調査手法】 質問紙による集合調査

【対象者】 「こうのとりの会」、および「出会いサポート」の交流会参加者

【抽出方法】 有意抽出法。

【配布及び回収の方法】 下記期間に開催された交流会の内、調査可能な交流会において、調査票を配布し、空き時間に記入してもらった。また調査票は、その場で回収した。

【調査期間】 2007 年 11 月から 2007 年 12 月下旬

【回収数・有効回収数】 配布数 : 365 票 回収数 : 301 票

有効回収数 : 294 票 有効回収率 : 80.5%

【統計処理に関して】 本調査の統計処理は、エス・ピー・エス・エス株式会社の SPSS15.0J for Windows をもちいておこなった。集計した結果をパーセントで示す際、端数処理のために合計が 100 パーセントにならない場合がある。

質問紙調査を実施したイベントとその概要および対象者の基礎データは以下の通りである。「こうのとりの会」の交流会 2 回、および「出会いサポート」の交流会 4 回に参加し、質問紙調査をおこなった。

質問紙調査の対象者は、「こうのとりの会」参加者が 3 割、「出会いサポート」参加者が 6 割、残りの 1 割はどちらにも参加したことのある人たちとなっている。

また、2 つの事業を合わせて 6 回の交流会で質問紙調査を実施したが、参加した女性の内 5 人に 1 人は 20 代であるのに対して、男性では 4 人に 1 人が 40 代以降となっており、やや性別による年齢差があることが分かる。

① 質問紙調査を実施した交流会とその概要

表 6：質問紙調査を実施した交流会およびその概要

調査日	種類	参加男性	参加女性	成立カップル数	配布数	回収数
11月10日	出会いサポート	21	20	6	41	41
11月11日	こうのとりの会	24	24	4	47	44
11月17日	出会いサポート	13	13	7	26	26
11月29日	出会いサポート	24	24	9	48	47
12月2日	出会いサポート	72	71	22	150	93
12月22日	こうのとりの会	29	28	8	53	50
合計		187	182	56	365	301

② 性別・年齢

表 7：質問紙調査回答者の年齢・性別

		20代	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	合計
男性	度数	17	49	36	25	9	136
	%	12.5%	36.0%	26.5%	18.4%	6.6%	100.0%
女性	度数	28	59	48	13	1	149
	%	18.8%	39.6%	32.2%	8.7%	0.7%	100.0%
合計	度数	45	108	84	38	10	285
	%	15.8%	37.9%	29.5%	13.3%	3.5%	100.0%

③ きょうだい数

表 8：性別ときょうだい数

		1人	2人	3人	4人以上	合計
男性	度数	15	69	45	5	134
	%	11.2%	51.5%	33.6%	3.7%	100.0%
女性	度数	15	91	42	5	153
	%	9.8%	59.5%	27.5%	3.3%	100.0%
合計	度数	30	160	87	10	287
	%	10.5%	55.7%	30.3%	3.5%	100.0%

④ きょうだい関係

表 9：きょうだい関係

	度数	有効パーセント	累積パーセント
長男	90	35.6%	35.6%
次男以降	26	10.3%	45.8%
長女	104	41.1%	87.0%
次女以降	33	13.0%	100.0%
合計	253	100.0%	

⑤ 同居人数

表 10：性別と同居人数

		1人※	2人	3人	4人	5人以上	合計
男性	度数	41	18	41	22	11	133
	%	30.8%	13.5%	30.8%	16.5%	8.3%	100.0%
女性	度数	34	16	55	30	14	149
	%	22.8%	10.7%	36.9%	20.1%	9.4%	100.0%
合計	度数	75	34	96	52	25	282
	%	26.6%	12.1%	34.0%	18.4%	8.9%	100.0%

※「1人」は単身世帯を示す

⑥ 性別と交流会の参加状況

表 11：性別と交流会参加状況

		こうのとりの会	出合いサポート	どちらにも参加 したことがある	合計
男性	度数	43	74	9	126
	%	34.1%	58.7%	7.1%	100.0%
女性	度数	34	88	17	139
	%	24.5%	63.3%	12.2%	100.0%
合計	度数	77	162	26	265
	%	29.1%	61.1%	9.8%	100.0%

⑦ きょうだい関係と交流会の参加状況

表 12：きょうだい関係と交流会の参加状況

		このとりの会	出会いサポート	どちらにも参加 したことがある	合計
長男	度数	25	49	8	82
	%	30.5%	59.8%	9.8%	100.0%
次男以降	度数	14	11	0	25
	%	56.0%	44.0%	0.0%	100.0%
長女	度数	20	62	13	95
	%	21.1%	65.3%	13.7%	100.0%
次女以降	度数	10	17	3	30
	%	33.3%	56.7%	10.0%	100.0%
合計	度数	69	139	24	232
	%	29.7%	59.9%	10.3%	100.0%

第 3 節 本報告書でもちいるその他のデータ

1. 交流会の非参与観察

2007 年 11 月から 12 月末にかけておこなわれた「このとりの会」および「出会いサポート」の交流会の内、質問紙調査が可能だったものについては、会場において非参与観察をおこなった。また、2008 年 1 月に実施された「オーネット」のウェルカム・パーティの会場にて、非参与観察を実施した。

以上、「このとりの会」交流会には 2 回、「出会いサポート」交流会には 4 回、「オーネット」によるイベントには 1 回の合計 7 回出席した。

2. 交流会に関するデータ

「このとりの会」「出会いサポート」いずれの事業についても、これまでの交流会における参加者数等について、青少年本部からデータ提供を受けた。

「このとりの会」については、2007 年度に開催されたイベントの男女別参加者数、成立カップル数、男女別参加費等のデータである。

「出会いサポート」については、2007 年度に開催されたイベントの男女別参加者数、成立カップル数、所要時間、開催場所、男女別参加費用等のデータである。

第3章 結婚支援事業とその受け止め方

本章では、結婚支援事業において実施されている交流会がどのようなものなのかを概観した上で、交流会に関するデータおよび質問紙調査の結果をもちいて、参加者たちが事業をどのように受け止めているのかを述べていく。

第1節 交流会について

1. 交流会の流れ

まず、「このとりの会」および「出会いサポート」が実施している交流会の流れについて、簡単に見ておこう。図3は、「ひょうご出会いサポートセンター」が、一例として示しているイベントの流れである。参加人数や会場、時間の制限、また特に「出会いサポート」ではイベントの運営をどの協賛団体がおこなうかによっても異なるが、大まかな流れは以下の通りである。

例として示した図では、開会のあと自己紹介の時間が5分とられている。しかし、参加者が40名ほどになれば、5分という時間で全員が自己紹介をすることは難しい。そのためか、非参与観察した交流会では、図3にあるような自己紹介単独の時間はとられない場合の方が多かった。

したがって、基本的に、プロフィールトークと呼ばれる、自己紹介をかねた1対1の会話時間が、交流会の最初のプログラムとなっている。プロフィールトークでは、お互いの名前や居住地域、職業などの属性や、簡単な趣味や好みなどを記したプロフィールカード(詳細については後述)を交換して話すことになる。1人の相手と話す時間は、人数等にもよるが、おおよそ1分半から3分となっている。

この間、男女はお互いに向き合って席に着いているが、時間になると司会者の指示によって1つずつ男性が席を移動し、相手を交代する。これが、全員と話し終えるまで繰り返されるため、参加者数が男女各25人のイベントである場合、プロフィールトークの時間が2分ずつであったとしても、50分以上かかることになる。

次の「フリートーク」の時間帯では、完全なフリーとなって、各自が気になる異性のところへ移動するという場合もあれば、指定されたテーブルごとの移動によって話す相手を変えるという場合もある。また、この間に配布されたカード等を持ちいてメールアドレスや電話番号を交換することもある。

以上を経て、最後にカップル投票になる。カップル投票では、基本的に第一希望と第二希望を記入する。自分が記入した2名の内、どちらかが自分を第一希望もしくは第二希望としている場合、カップル成立となる。

ただし、以上のような1対1の会話時間を含む交流会は、参加者数50人くらいまでの規模が限界である。それ以上の人数になる場合は、フリータイムがメインの交流会となる。この点については、県の事業についても、民間の事業についてもほぼ同様であると言える。



出会いの場イベント企画

イベントの流れ(一例)

- カップリング・ティーパーティー
- 時間:2時間30分
- 参加者内訳:男性20名 女性20名(計40名)
- 受付時 参加者に名札、プロフィールカード、交際希望カード配布



図 3 : 交流イベントの流れ (ひょうご出会いサポートセンター 2008)

2. プロフィールカード

多くの場合、プロフィールトークは交流会の最初のプログラムとなるが、その際にプロフィールカードが重要なアイテムとなっている。プロフィールカードは、「このどりの会」と「出会いサポート」で異なっており、また同じ「出会いサポート」のイベントであっても協賛団体によって異なることもある。ただし、基本的には自分の属性や趣味等を記入した、相手に対する簡単な自己紹介カードとなっている。

下記に示しているのは、協賛団体の1つである日本サプライズ社が作成しているプロフィールカードである。日本サプライズ社は、協賛団体としてもっとも多くイベント運営をしており、「出会いサポート」の交流会の半数程度に関わっている。

図示したプロフィールカードは、インプレッションカードと両面になっている。プロフィールトークの際に相手に手渡すことで、自分の名前の他、血液型や飲酒・喫煙の有無、休日の過ごし方、好きなタイプなどが分かるようになっている。つまり、このカードは、初対面の人との会話をスムーズにする役割を担っている。

「出会いサポート」のスタッフ・Eさんは、プロフィールトークの間は、参加者たちがある程度円滑に話しているにもかかわらず、フリータイムになると会話が途切れてしまうという状況にもどかしさを感じている。そして、「本当は全部フリータイムでもええぐらいかと思うんですけど、そういうわけにもいかないのですね」と語る。

プロフィールカードは、プロフィールトーク開始時に会話をする相手と交換し、終了時にお互いに返却する。次の相手とまた同じように交換して会話、返却、そして次の相手と…と同じことを繰り返していくことになる。またカードを相手に返すトーク終了の際に、インプレッションカードの自分の番号欄に、相手に対する印象を書き込むことになっている。

ただし、目の前にいる相手にカードを返す際、「タイプではない」といったことを率直に書き込むことは難しい。そこで、この点に一工夫がなされており、印象はA～Dといった記号で書き込む。またその記号の意味するところは男性と女性によって異なっているため、相手から返された時点ではどのような印象を持たれたのかが分からない。

参加者がすべての異性とのプロフィールトークを終了した後、それぞれの記号が「タイプだと思います」「まだよくわからない」「もう少しお話してみたい」「ごめんなさい。タイプではないかも…」といったどの印象を示しているのかを明らかにする。つまり、この時点で何番の異性が自分を好意的に見ており、あるいは見ていないのかが分かるという仕組みである。

また、次に示しているシャッフルアプローチカードは、自分の連絡先を記入するカードと両面になっており、1枚ずつ切り取ることが出来る形になっている。このカードで、アプローチメッセージを添えて、自分の名前や連絡先を相手に渡すことが出来る。

PROFILE CARD

■私の番号： _____ ■名前： _____
 _____ (歳)

■お住まい… _____ ■血液型… A型 ・ B型 ・ O型
 _____ AB型 ・ わからない

■お酒… 飲む ・ 飲まない ■たばこ… 吸う ・ 吸わない

■休日… _____ ■休日の過ごし方… _____
 月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金
 土 ・ 日 ・ 不定休 ()

■好きな異性のタイプ… _____ ■嫌いな異性のタイプ… _____

■男性該当項目…	■女性該当項目…
上場企業・有名企業・メーカー・商社 外資系企業・販売業・サービス業 金融業・シンクタンク・エコノミスト 大手企業エンジニア・SE・研究者 アパレル関係・マスコミ関係・教諭 デザイナー・IT関係・国家公務員 地方公務員・医師・歯科医師・税理士 弁理士・会計士・弁護士・会社経営 会社役員・自営業・有力国家資格取得 大卒・院卒・持家・貯蓄1000万円以上 年収500万円以上・年収1000万円以上 スポーツマン・身長175cm以上 その他 ()	会社員・公務員・受付・秘書・教諭 航空関連職・モデル(経験者含む) 保育士・イベントコンパニオン・看護師 その他の医療関連職・販売業・サービス業 会社経営・会社役員・大卒・短大卒 その他 ()

※該当項目に○を付けてください。(複数可)

IMPRESSION CARD

1	11	21	31	41
2	12	22	32	42
3	13	23	33	43
4	14	24	34	44
5	15	25	35	45
6	16	26	36	46
7	17	27	37	47
8	18	28	38	48
9	19	29	39	49
10	20	30	40	50

※対1女性が終わる毎にご自分の番号札を右の横の欄へお返しに相手の方に意図をつけて返してあげてください。

◆◆IMPRESSION CARD の答え合わせ◆◆

タイプだと思います。	まだよくわからない。
もう少しお話してみたい。	ごめんなさい、タイプではないかも…。

パーティの進行

- 1対1会話
男性の方に席を移動して頂きながらお話をさせていただきます。お話が終わる毎に、お相手の印象欄をチェックしてください。
- お席替え
印象が良かった方、もっとお話ししたい方の年1:1ご自身でお席を取って頂いて、ゆっくりとお話をして頂きます。
- 連絡先カードの配布
連絡先を書いたカードをま配布頂きます。
- マージング
今日のパーティでカプセルになった方の番号をお二人まで記して頂きます。
- カップル発表
カップルになったま二人の発表です。
- 企画内容による進行は変わる場合がありますのでご了承ください。

恋工房パーティ tel.078-230-6058 URL http://www.koikoubu.co.jp (携帯対応)

COUPLING CARD

私の番号	第一希望	第二希望
	番	番

※このカードは、本日ご参加頂いたパーティの中で、最終的に印象の良かった方2名様まで決めて記入して頂きます。
 ※カップル発表のないパーティプランの場合、カップルになった方には、このカードに印を付けてご返却致します。
 その印が付いている番号の方とカップル成立ということですので、ご連絡先符の交換をお忘れにならないようにご注意ください。

恋工房パーティ tel.078-230-6058 URL http://www.koikoubu.co.jp (携帯対応)

図 4: プロフィールカード・インプレッションカード

<p>Shuffle Approach Card</p> <p>■私の番号 ■名前</p> <p>_____ (歳)</p> <p>◆アプローチメッセージ◆</p> <p><input type="checkbox"/>カップルになりませんか? <input type="checkbox"/>二人でお話してみたい <input type="checkbox"/>遊びに行きませんか? <input type="checkbox"/>連絡ください <input type="checkbox"/>その他【 _____]</p> <p><small>※裏面もご利用ください。</small></p>	<p>■E-mail: <input type="checkbox"/> @ docomo.ne.jp <input type="checkbox"/> @ ezweb.ne.jp <input type="checkbox"/> @ .vodafone.ne.jp <input type="checkbox"/> @</p> <p>■tel: - -</p> <p>恋工房パーティ tel:078-230-6058 URL:http://www.koikoubo.co.jp (携帯対応)</p>
<p>Shuffle Approach Card</p> <p>■私の番号 ■名前</p> <p>_____ (歳)</p> <p>◆アプローチメッセージ◆</p> <p><input type="checkbox"/>カップルになりませんか? <input type="checkbox"/>二人でお話してみたい <input type="checkbox"/>遊びに行きませんか? <input type="checkbox"/>連絡ください <input type="checkbox"/>その他【 _____]</p> <p><small>※裏面もご利用ください。</small></p>	<p>■E-mail: <input type="checkbox"/> @ docomo.ne.jp <input type="checkbox"/> @ ezweb.ne.jp <input type="checkbox"/> @ .vodafone.ne.jp <input type="checkbox"/> @</p> <p>■tel: - -</p> <p>恋工房パーティ tel:078-230-6058 URL:http://www.koikoubo.co.jp (携帯対応)</p>
<p>Shuffle Approach Card</p> <p>■私の番号 ■名前</p> <p>_____ (歳)</p> <p>◆アプローチメッセージ◆</p> <p><input type="checkbox"/>カップルになりませんか? <input type="checkbox"/>二人でお話してみたい <input type="checkbox"/>遊びに行きませんか? <input type="checkbox"/>連絡ください <input type="checkbox"/>その他【 _____]</p> <p><small>※裏面もご利用ください。</small></p>	<p>■E-mail: <input type="checkbox"/> @ docomo.ne.jp <input type="checkbox"/> @ ezweb.ne.jp <input type="checkbox"/> @ .vodafone.ne.jp <input type="checkbox"/> @</p> <p>■tel: - -</p> <p>恋工房パーティ tel:078-230-6058 URL:http://www.koikoubo.co.jp (携帯対応)</p>
<p>Shuffle Approach Card</p> <p>■私の番号 ■名前</p> <p>_____ (歳)</p> <p>◆アプローチメッセージ◆</p> <p><input type="checkbox"/>カップルになりませんか? <input type="checkbox"/>二人でお話してみたい <input type="checkbox"/>遊びに行きませんか? <input type="checkbox"/>連絡ください <input type="checkbox"/>その他【 _____]</p> <p><small>※裏面もご利用ください。</small></p>	<p>■E-mail: <input type="checkbox"/> @ docomo.ne.jp <input type="checkbox"/> @ ezweb.ne.jp <input type="checkbox"/> @ .vodafone.ne.jp <input type="checkbox"/> @</p> <p>■tel: - -</p> <p>恋工房パーティ tel:078-230-6058 URL:http://www.koikoubo.co.jp (携帯対応)</p>
<p>Shuffle Approach Card</p> <p>■私の番号 ■名前</p> <p>_____ (歳)</p> <p>◆アプローチメッセージ◆</p> <p><input type="checkbox"/>カップルになりませんか? <input type="checkbox"/>二人でお話してみたい <input type="checkbox"/>遊びに行きませんか? <input type="checkbox"/>連絡ください <input type="checkbox"/>その他【 _____]</p> <p><small>※裏面もご利用ください。</small></p>	<p>■E-mail: <input type="checkbox"/> @ docomo.ne.jp <input type="checkbox"/> @ ezweb.ne.jp <input type="checkbox"/> @ .vodafone.ne.jp <input type="checkbox"/> @</p> <p>■tel: - -</p> <p>恋工房パーティ tel:078-230-6058 URL:http://www.koikoubo.co.jp (携帯対応)</p>

図 5：シャッフルアプローチカード

第 2 節 満足度とカップルの成立および成婚

1. これまでの交流会概要

ここでは、まずこれまでの「こうのとりの会」および「出会いサポート」が実施してきた交流会の概要と、交流会におけるカップルの成立割合について見てみたい。

表 13 は、青少年本部から提供を受けたデータ・資料をもちいて、男女それぞれの参加者数、参加費用、カップル数、およびカップル成立割合を示したものである。いずれの交流会においても、男女の参加者数の平均値は 21～22 人となっている。ただし、最

大値と最小値の差および標準偏差から、交流会の規模は、男女いずれにおいても「このとりの会」より「出会いサポート」で、ばらつきが大きくなっていることが分かる。

交流会への参加費用について見てみると、男女のいずれにおいても、「出会いサポート」の参加費用が高くなっている。平均的には「このとりの会」の男性で 3300 円、女性で 3100 円、「出会いサポート」男性で 5400 円、女性で 5300 円となっていた。

カップル数については、「このとりの会」で 1 組のみ成立、「出会いサポート」では 1 組のカップルも成立しない交流会がある一方で、最大では、「このとりの会」で 8 組、「出会いサポート」で 22 組が成立する場合もある。平均的にも「このとりの会」で 4 組弱、「出会いサポート」で 6 組がカップルとなっていることが分かる。

成立カップル数は、その交流会における参加者数とも関係してくる。そこで、参加者数および成立カップル数からカップルの成立割合を算出して示している。カップルの成立割合は、 $(\text{成立カップル数} \times 2) \div \text{参加者数}$ を示した値である。たとえば、40 名（男女 20 名ずつ）が参加した交流会で、10 組が成立した場合、 $10 \text{ カップル} \times 2 \div 40 \text{ 名} = 0.5$ となる。これは、参加者の内 50% の人たちがカップルになったということを示している。

この値から、最大では「このとりの会」で 31%、「出会いサポート」で 59% の人がカップルになっていることが分かる。平均的にも「このとりの会」で 18%、「出会いサポート」で 27% の人がカップルになっている。

表 13 : 「このとりの会」「出会いサポート」の交流会概要 (2007 年度実績)

	種別	最小値	最大値	平均値	標準偏差
男性参加者数	このとりの会(N=11)	16	29	22.09	4.28
	出会いサポート(N=107)	4	72	21.32	10.13
女性参加者数	このとりの会(N=11)	15	28	21.27	3.95
	出会いサポート(N=107)	6	71	21.17	10.65
参加者数合計	このとりの会(N=11)	31	57	43.36	8.16
	出会いサポート(N=107)	10	143	42.49	20.57
男性費用(円)	このとりの会(N=11)	1500	5500	3318.18	1031.33
	出会いサポート(N=106)	500	41000	5422.64	5068.56
女性費用(円)	このとりの会(N=11)	1500	4500	3090.91	800.57
	出会いサポート(N=106)	500	41000	5290.57	5089.17
カップル数	このとりの会(N=11)	1	8	3.73	2.01
	出会いサポート(N=99)	0	22	6.23	4.70
カップルの成立割合	このとりの会(N=11)	.04	.31	.18	.09
	出会いサポート(N=99)	.00	.59	.27	.15

2. 交流会への満足度

では、次に質問紙調査の結果から、交流会に対する満足度を見てみよう。以下の図は、「こうのとりの会」および「出会いサポート」について「満足」から「不満」までの4件法で尋ねた結果を示したものである。

「こうのとりの会」については、「満足」「やや満足」を合わせて66%の人が満足と答えているのに対して、「出会いサポート」では62%となっている。この結果から、交流会への参加者はおおむねイベントに対して満足していることが分かる。また興味深いことに、カップル成立割合では「出会いサポート」の方が高くなっていたにもかかわらず、満足度については若干ながら「こうのとりの会」の方が高くなっている。

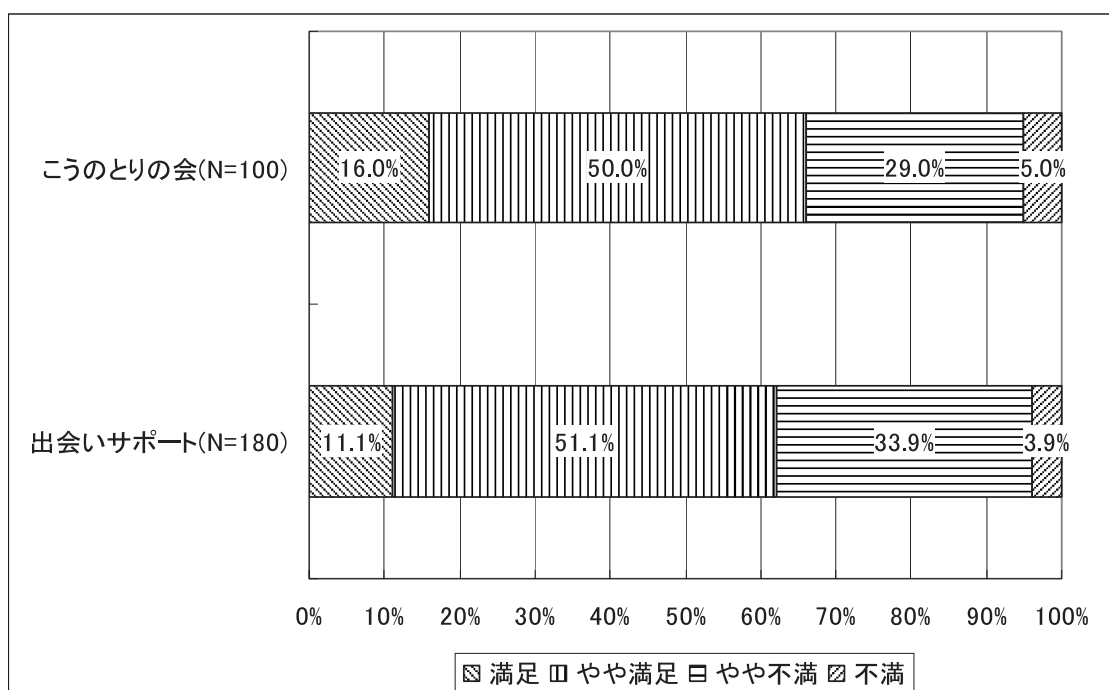


図 6 : 交流会参加者の満足度

さらに次の図では、「満足」と「やや満足」、「不満」と「やや不満」を統合した上で、男女別に満足度を示した。「こうのとりの会」参加男性で66.7%、女性で64.4%、「出会いサポート」については男性64.3%、女性61.7%となっている。いずれの交流会においても、若干ながら男性で満足度が高くなっていることが分かる。

交流会に対する満足度がもっとも高いのは、「こうのとりの会」参加男性で、逆にもっとも低くなっていた「出会いサポート」参加女性と比べると、実に5ポイントの差がついている。

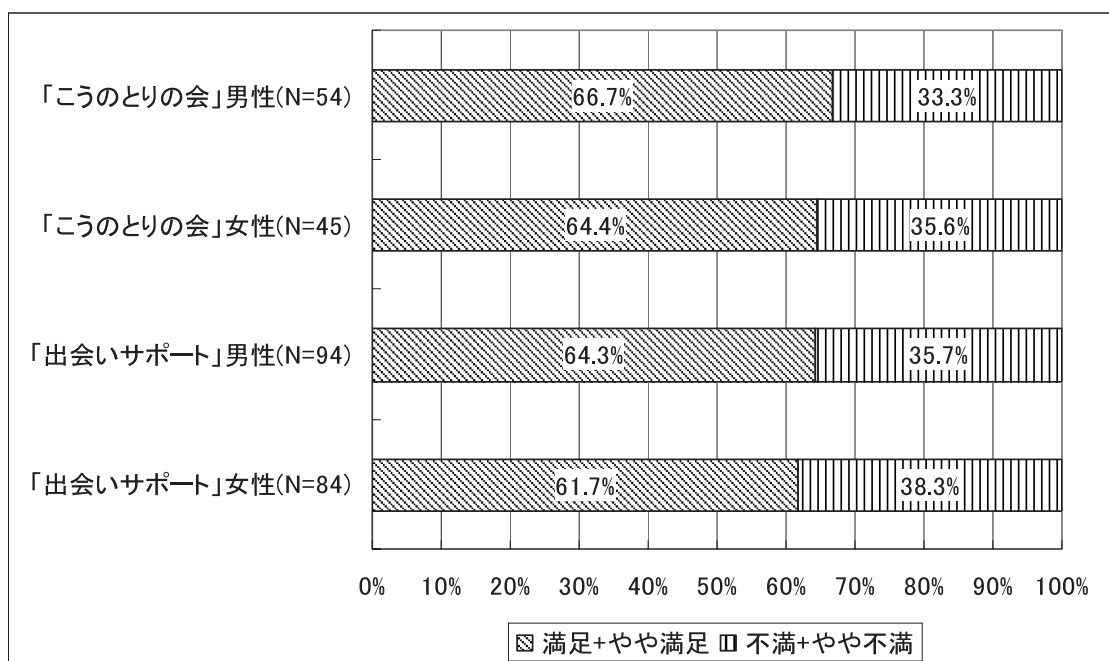


図 7：種類別男女別の満足度

第 3 節 参加者の結婚観

1. 結婚に対する意識

交流会参加者に対して実施した質問紙調査では、「結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ」といった結婚にかかわる意識 13 項目について尋ねている。次の図は、「そう思う」から「そう思わない」まで 4 件法で尋ねた結果を、「そう思う」と答えた人の割合が高いものから、順に示したものである。

その結果、「結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居するのがよい」「子どもがいれば、夫婦の仲がたとえ悪くなくても、別れるべきではない」「子どものいない人生はむなしなものだ」「恋愛と結婚は別である」「結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ」「結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない」「ひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じように、子どもを育てることができる」「子どもが欲しい人は結婚するべきだ」の 8 項目については、過半数の人が肯定的（「そう思う」「ややそう思う」）に回答していた。一方、肯定的な回答が少ない項目のなかでも、特に「どんな悪い結婚でも、結婚しないよりはましだ」については、90%以上の人が否定的に答えていた。

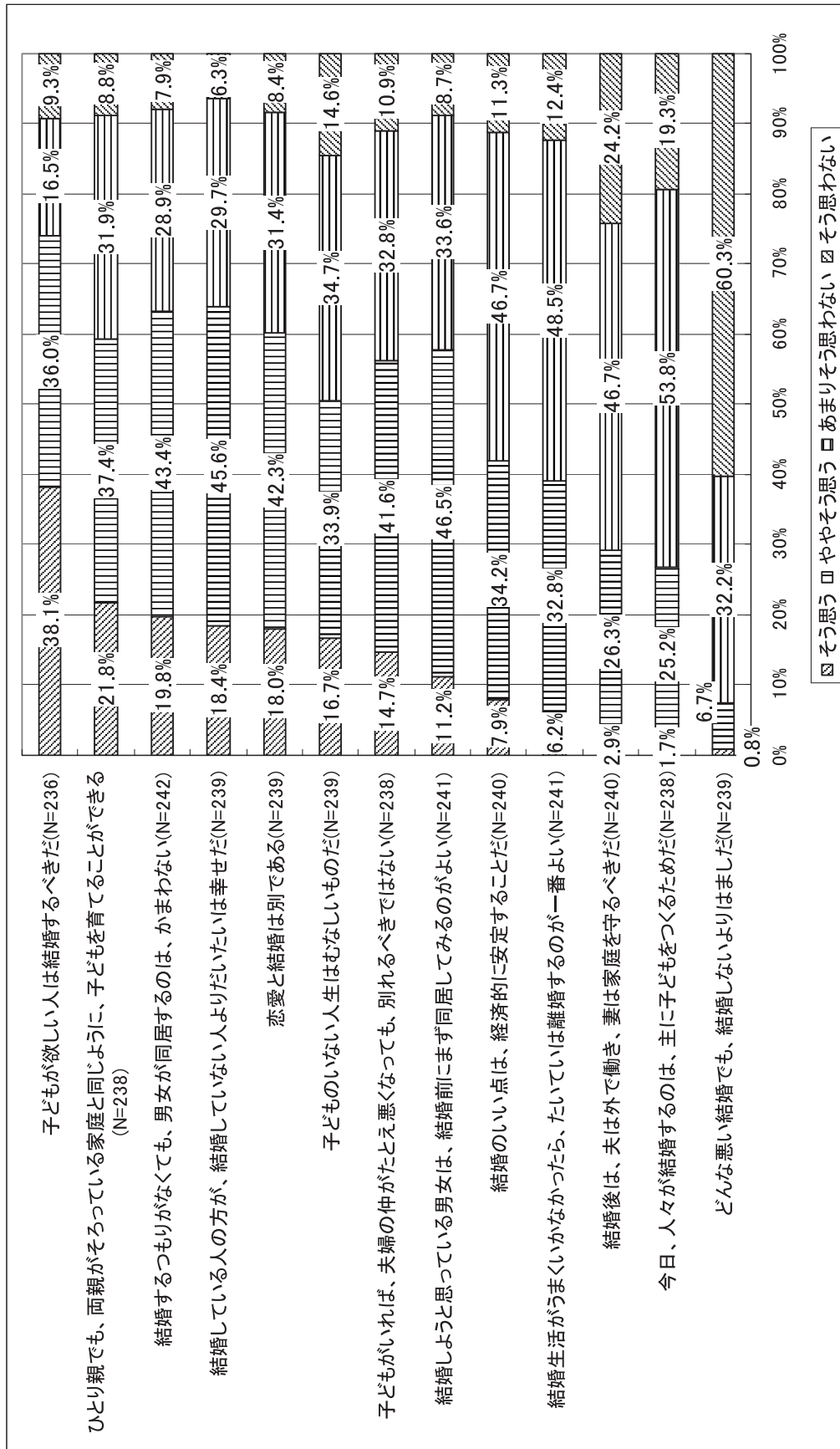


図 8：参加者の結婚観

結婚に対する意識としては、以上のような結果となっていた。ただし、結婚観は性別によって大きな違いが生じる可能性があるため、男女別の検討をおこなう。

次の表は、上記13項目の内、性別によって有意差が認められた3項目について示したものである。「結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ」という項目については、男性の75%が肯定的（そう思う＋ややそう思う）に答えているのに対して、女性の場合は肯定と否定がほぼ半数ずつになっている。

また、「結婚のいい点は、経済的に安定することだ」という問いに対しては、女性の半数が肯定的に回答している一方、男性では3割に満たない。「子どものいない人生はむなしいものだ」という子どもに関連する項目では、男性の6割以上が肯定的に答えているが、女性では4割弱となっていた。

表 14：男女別結婚観

		そう 思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	人数 (人)
結婚している人の方が、結婚して いない人よりだいたい幸せだ** ($\chi^2=36.599$, d.f.=3, $V=.360$)	男性	28.6%	45.9%	18.0%	7.5%	133
	女性	5.3%	48.0%	41.3%	5.3%	150
結婚のいい点は、経済的に 安定することだ** ($\chi^2=16.684$, d.f.=3, $V=.242$)	男性	3.8%	25.6%	56.4%	14.3%	133
	女性	9.9%	42.4%	40.4%	7.3%	151
子どものいない人生は むなしいものだ** ($\chi^2=18.4939$, d.f.=3, $V=.256$)	男性	20.5%	40.9%	27.3%	11.4%	132
	女性	9.3%	27.2%	44.4%	19.2%	151

V は Cramer's V 係数、**は 1%水準、*は 5%水準で有意な値を示す

2. 事業で異なる結婚観

すでに見たように、「こうのとりの会」と「出会いサポート」には、目的や会員資格の点でいくつかの違いがあった。そこで、どちらの参加者であるかによって、以上の結婚観に異なっている部分があるのかどうか、検討しておこう。

表15および表16は、男女別事業別の三重クロス集計をおこなった結果である。それぞれの事業の参加者の違いを詳細に検討するため、ここでは10%水準で違いが認められたものまで示している。その結果、13項目のうち、8項目において男女のいずれかで有意差が見られた。

男性で有意差が認められたのは、「ひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じよ

うに、子どもを育てることができる」「結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居してみるのがよい」「結婚のいい点は、経済的に安定することだ」「どんな悪い結婚でも、結婚しないよりはましだ」「子どもが欲しい人は結婚するべきだ」「恋愛と結婚は別である」という6項目である。

特に両者の違いが大きかったものとしては、「結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居してみるのがよい」「恋愛と結婚は別である」の2つがある。「出会いサポート」の参加男性では、結婚前に同居してみる方が良いと考える傾向が強く、また「恋愛と結婚は別である」という意見に対して肯定的に答える割合が多い。ただし、後者については「こうのとりの会」に参加した男性では「そう思う」もしくは「そう思わない」という両端に分かれる傾向がある。

女性で有意差が見られたのは、「結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない」「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という2項目である。

「こうのとりの会」参加女性は、比較的性別分業意識を強く内面化していた。また、結婚する意志がない場合の同居については、「こうのとりの会」の47%、「出会いサポート」の31%が否定的に回答しており、前者の方がより否定的である。

以上のように、「こうのとりの会」と「出会いサポート」を比較した場合、前者の参加者の方がやや保守的な傾向を持っていることが分かる。特に女性において、このような事業別の違いが生じることは、興味深い点である。

「こうのとりの会」に参加する男性は、原則として農山漁村部在住者に限定されているため、上記のような差異があらわれることは理解しやすい。しかし、女性に対してはこのような地域限定がある訳ではない。

つまり、それにもかかわらず、このような違いがあるということから、いずれの事業にも参加可能でありながら、あえて「こうのとりの会」を選択している女性がいること、そしてその女性たちはやや保守的な傾向を持っているということが分かる。

また、保守的な傾向は「こうのとりの会」参加男性にも同様に見られたため、農山漁村部の男性と近い考えや意識を持った女性が、「こうのとりの会」を選択して参加していると考えることが出来る。したがって、この点で「こうのとりの会」は、「出会いサポート」と異なる独自の存在意義を持っていると言えるだろう。

表 15：男女別事業別結婚観 1

		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	人数(人)
ひとり親でも、両親が そろっている家庭と 同じように、 子どもを育てることができる	男性*	このとりの会	26.8%	24.4%	43.9%	41
	($\chi^2=9.039$, d.f.=3, V=.282)	出会いサポート	17.8%	41.1%	24.7%	73
結婚しようと思っている 男女は、結婚前にまず 同居してみるのがよい	女性	このとりの会	24.2%	33.3%	39.4%	33
	($\chi^2=1.736$, d.f.=3, V=.120)	出会いサポート	21.8%	41.4%	29.9%	87
結婚のいい点は、経済的に 安定することだ	男性*	このとりの会	9.3%	41.9%	30.2%	43
	($\chi^2=8.581$, d.f.=3, V=.272)	出会いサポート	20.5%	49.3%	26.0%	73
結婚のいい点は、経済的に 安定することだ	女性	このとりの会	2.9%	47.1%	47.1%	34
	($\chi^2=2.598$, d.f.=3, V=.147)	出会いサポート	6.9%	47.1%	36.8%	87
結婚のいい点は、経済的に 安定することだ	男性#	このとりの会	4.8%	33.3%	35.7%	42
	($\chi^2=7.626$, d.f.=3, V=.258)	出会いサポート	4.1%	24.7%	60.3%	73
どんな悪い結婚でも、 結婚しないよりはましだ	女性	このとりの会	15.2%	42.4%	36.4%	33
	($\chi^2=1.564$, d.f.=3, V=.114)	出会いサポート	9.1%	37.5%	46.6%	88
どんな悪い結婚でも、 結婚しないよりはましだ	男性#	このとりの会	4.9%	2.4%	31.7%	41
	($\chi^2=6.806$, d.f.=3, V=.244)	出会いサポート	0.0%	12.3%	34.2%	73
結婚しないよりはましだ	女性	このとりの会	0.0%	2.9%	41.2%	34
	($\chi^2=2.140$, d.f.=3, V=.133)	出会いサポート	0.0%	4.6%	27.6%	87

V は Cramer's V 係数、*は 5%水準、#は 10%水準で有意な値を示す

表 16：男女別事業別結婚観 2

		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	人数(人)	
子どもが欲しい人は結婚するべきだ	男性#	このとりの会	50.0%	19.0%	9.5%	21.4%	42
	($\chi^2=6.547$, d.f.=3, V=.242)	出会いサポート	41.4%	32.9%	17.1%	8.6%	70
	女性	このとりの会	29.4%	35.3%	26.5%	8.8%	34
	($\chi^2=2.831$, d.f.=3, V=.154)	出会いサポート	32.6%	46.5%	16.3%	4.7%	86
恋愛と結婚は別である	男性#	このとりの会	31.0%	19.0%	40.5%	9.5%	42
	($\chi^2=8.652$, d.f.=3, V=.277)	出会いサポート	19.7%	46.5%	28.2%	5.6%	71
	女性	このとりの会	14.7%	41.2%	32.4%	11.8%	34
	($\chi^2=0.643$, d.f.=3, V=.073)	出会いサポート	12.5%	48.9%	29.5%	9.1%	88
結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべき	男性	このとりの会	4.7%	23.3%	44.2%	27.9%	43
	($\chi^2=0.673$, d.f.=3, V=.077)	出会いサポート	2.8%	28.2%	45.1%	23.9%	71
	女性*	このとりの会	2.9%	35.3%	55.9%	5.9%	34
	($\chi^2=8.550$, d.f.=3, V=.265)	出会いサポート	2.3%	20.5%	47.7%	29.5%	88
結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない	男性	このとりの会	18.6%	32.6%	37.2%	11.6%	43
	($\chi^2=4.383$, d.f.=3, V=.194)	出会いサポート	26.0%	42.5%	27.4%	4.1%	73
	女性#	このとりの会	20.6%	32.4%	29.4%	17.6%	116
	($\chi^2=7.080$, d.f.=3, V=.241)	出会いサポート	14.8%	54.5%	25.0%	5.7%	34

V は Cramer's V 係数、*は 5%水準、#は 10%水準で有意な値を示す

第4章 結婚支援事業の諸側面

第1節 交流会参加者の語り

本章では、主に聞き取り調査の結果から、参加者たちの事業に対する思いや、事業者の立場からの意見を検討することで、こういった事業が持つ課題を抽出するとともに、結婚支援事業者の諸側面について考察する。

1. 「こうのとりの会」会員

(1) aさんの場合

現在両親と3人で暮らしているaさんには、4歳下の弟と、8歳下の妹がいる。弟と妹はともに高校の同級生と結婚しており、aさん自身も大学を卒業以降くらいから「いい人がいたら、結婚を」と親にうながされている。

一方で、家庭での門限等は厳しく、勤めるようになってからも午後8時もしくは9時に帰宅するように言われている。職場での忘年会など、事前に分かっている場合はともかく、急遽遅くなるということは許されない。そのため、仕事帰りにあまり遅くまで出歩くということもなかった。

男性の少ない医療関係の現場で働いており、ラジオで「こうのとりの会」について紹介されていたのを聞いたことがきっかけとなって、「こうのとりの会」に入会した。aさんは、7～8年前に「こうのとりの会」の会員となって以来、毎年2～3回は交流会に参加している。

以前、民間のイベントにも参加したことがあるが、既婚者が「サクラ」として参加しているといった噂を聞いたことや、兵庫県が主催していることへの安心感があることから、現在では「こうのとりの会」の方が確実だと考えている。

また「こうのとりの会」を肯定的に受け止めている要因としては、費用的にあまり高額ではない点、地域の交流会ではバスで知らない土地に行ける点、自然のなかでのレクリエーションに参加出来る点などを挙げている。

友だちと一緒に交流会に参加することもあるが、どちらか一方のみがカップルとなった場合など、気まずくなることもあるので、基本的に一人で参加している。一緒に参加した場合でも、行き帰りに話はするが、会場では友だち同士でべったり話さないようにしている。

交流会で知り合った異性とメールや電話で連絡を取り合ったり、その後に1、2度会うことはあったが、交際にまで発展することはなかった。その理由としては、交流会では第一印象などでカップルになることはあっても、話をしていくなかで家族構成など本人同士以外の要素も絡んでくることを挙げている。

それでも「こうのとりの会」という事業に対してはおおむね満足しており、改善して欲しい点は特に思い当たらない。

(2) bさんの場合

bさんには姉が一人いるが、すでに結婚しており、現在、両親と3人で暮らしている。姉は、妹であるbさんに結婚を勧めることもあり、その姉から「こうのとりの会」の存在を知らされたことがきっかけで、入会することになった。bさんは20代後半の女性で、2006年後半に入会したあと、交流会には数回参加した。

30代前半までの結婚を希望しているが、焦らず真剣に相手をチェックしていきたいと考えている。そのために、「こうのとりの会」が持つ利点は結婚を意識している人と出会えることであると考えている。

20代半ばや前半の時には、もし家族に勧められたとしても、参加することはなかった。学校や会社で出会い、恋愛をして結婚するという流れが一般的であり、自然であると考えていること、またこういった交流会には、焦った雰囲気があるだろうと感じていたこと、交流会に参加することそれ自体が特別なことであると考えていたことが、その理由である。

しかし、とりあえず一度経験してみようと考えて参加した時、思っていたよりも印象が良かったので、その後も参加することにした。そして交流会への参加を重ねるなかで、こういう出会いもいいかなと感じられるようになった。

なぜなら、相手が結婚を意識している人でなければ、交際していても時間ばかりが過ぎていく。結婚を考えられる相手と、真剣に向き合って付き合っていきたいと思っているからである。つまり、参加するなかで、「こうのとりの会」への偏見が消えたのである。

「こうのとりの会」の男性会員は農山漁村部の人に限定されている。そのため、交流会で知り合った人と結婚に至ると、場合によっては親元から遠くに離れることになる。その点について、親が出来れば近くに住んで欲しいと望んでいることは知っているものの、bさんとしてはいい人がいれば、都市部でも農村部でも構わないと考えている。

また、以前から一人旅などで農村部に出かける機会が多かったこと、都市部よりも時間的にのんびりしているということがあり、農村部に対してむしろ肯定的なイメージを持っている。そのため、結婚後一緒に農業に携わることになったとしても構わないという。

そういった気持ちで参加しているため、男性に対しても、ただ寂しい、彼女が欲しいという気持ちではなく、真剣な気持ちで参加して欲しいと考えている。一方で、真剣ではあっても、ひたすら自分のことを話し続けるなど、会話のキャッチボールが出来ない場合も困るという。

プロフィールトークの際、どういう仕事をしていて、収入はいくらで、趣味は何と、自己紹介をした上で、いきなり「僕ではだめですか、だめですか」と一方的に話し続ける人がいた。教えてくれるのは嬉しいが、怖さを感じるくらいの勢いで、キャッチボールではなく相手が「投げっぱなし」の状態だったという。

交流会でカップルになった人とは一度出かけたことがあるが、交流会で会うのとはイメージが違っていた。思っていたよりも優しく、頼りがいもあると感じられるなど、プ

ラスの点があった一方で、マイナスに受け取れる部分として、ただ彼女が欲しいだけというようにも感じられた。

またその際に、手をつなごうとされたことに対して、抵抗感を感じた。交流会では、その相手に対して投票し、確かにカップルとして成立したが、あくまでも友だちから関係を始めても良いという意思表示だった。まだ相手のことをあまり知らず、付き合っている訳でもない状態と認識していたため、友だち関係である旨、確認をとったという。

「こうのとりの会」への要望としては、現状では番号と顔がなかなか一致しないため、ゲームなどをするよりプロフィールトークの時間を長くして欲しいということがある。相手がいろいろな話をしてくれても、書き留める時間もなければ、また次の相手と話すことになり、ただぐるぐる回っているだけになってしまうからである。他には、交流会の回数を増やして欲しいということ、もう少し広報して欲しいといった点を挙げている。

ただし、全般的に交流会には満足しており、こういった「場」があることはありがたいという。

(3) c さんの場合

cさんは現在、両親と3人暮らしをしている30代後半の女性である。5歳下の妹が一人いるが、数年前に結婚している。学卒後、一時会社勤めをしていたが、その後実家の仕事を手伝うようになっており、日々の生活のなかで異性との出会いがほとんどない。

妹が会について記されたペーパーを持ってきたことがきっかけとなり、じっとしていたら何も始まらないが、入会することで可能性は広がると考えて、「こうのとりの会」に入会した。2006年後半に「こうのとりの会」、2007年に入ってから「出会いサポート」にも登録している。

入会の動機としては、出会いがないということに加えて、いわゆる「お見合い」に抵抗感があるということも挙げる。見合いの場合、本人の知らないところで話が始まり、紹介する人さえ本人を知らないままということもあるという状況で、他人に段取りされるという点に抵抗感を持っているという。それに対して、「こうのとりの会」および「出会いサポート」は、「自分で見出さないと進まない」ものとして受け止めている。

ただし、参加者数が150名という規模の大きな交流会と、50名までの交流会とを比較して、前者のような形式は苦手だと語る。両者のもっとも大きな違いは、前者では自分からアクションを起こさない限り、会話さえ成り立たないが、後者ではプロフィールトークの時間があるという点である。特に女性の場合は受け身になりがちでもあるため、後者のような全員と会話する時間がある形式の方が望ましいという。

また、見合いに抵抗があるのと同様に、cさんは民間の結婚支援事業についても入会する気持ちにはなれない。「こうのとりの会」や「出会いサポート」は、民間の事業に比べて、兵庫県がバックについているという点で安心感があるという。結婚に関することをビジネスにしているという点で、民間事業に抵抗感を感じている。

cさんは両方の交流会に参加している立場から、「こうのとりの会」と「出会いサポート」を比較して、「出会いサポート」の方が馴染みやすいと感じている。その理由と

しては、「このとりの会」の参加男性は、控えめで、どちらかという主張のない人が多いということを挙げている。

また、交流会で知り合った人とカップルになったことはあるが、その後関係を続けていくのが難しい。まず、メールで連絡をとる時点で関係が途切れてしまうこともあり、その後一緒に出かけたとしても、一度で終わってしまったりするという。

交流会については、いずれも5回ほどずつ参加しているが、男性と友だちになったり、カップルになるよりは、むしろ女性同士で仲良くなることが多い。会で知り合った女性たちとは、月1回ほどのペースで食事などを行っているが、そこで交流会参加に年齢の上限がある点に話題が及ぶことがある。

cさんは、実質的に対策が必要になるのは、40歳前後の女性たちだと考えている。それにもかかわらず、年齢制限のために参加出来ない女性がいることを残念に感じている。また一般的に、男性は自分よりも年下の女性を選ぶ傾向があるために、20代から40代まで参加するという形式よりは、年齢層を細かく分けて欲しいという点も要望として挙げている。

2. 「出会いサポート」会員

(1) dさんの場合

現在一人暮らしをしているdさんは、30代前半の女性である。実家には父、母、祖母の3人が住んでおり、弟と妹もそれぞれ別のところで生活している。

女子大を卒業後、ほぼ女性ばかりの職場で働いている。土日の夜も休みではなく、時間帯も不安定な仕事をしているため、一時期は仕事一本になりそうな不安を抱えていた。友だちの結婚式などで焦りを感じながら、出来れば早く結婚したいと考えている。

入会したきっかけは、新聞記事で見かけたことである。しかし、当初は会社単位で会員団体として登録する以外に参加する方法がなかったが、準会員制度が出来たことで、参加することが出来るようになった。

dさんは、「出会いサポート」が県による事業でなければ、参加していないという。民間事業についても、新聞や雑誌の広告などで年収の条件や成婚者の感想を見ることがあるが、疑いの気持ちで見ている。それに対して、兵庫県がやっているということであれば、怪しいところではないと感じるし、全国でも県が取り組んでいるところはなかなかないと思うので、参加することにした。

これまでに2回の交流会に参加しているが、1度は参加者150名という規模の大きな交流会で、1対1の会話時間がないフリースタイルは苦手だと感じた。もう1度は50人程度のイベントだったが、それでもプロフィールトークの時間が、1人あたり1分半では短すぎるという。

また、そのあとのフリータイムは、いす取りゲームのようで、行きたい人のところに行けないこともある。そのため、自分のなかで異性に対する判断基準を確立させておく必要があると考えている。

規模の小さい交流会でカップルとなり、その相手と一緒に出かける予定でいる。相手

を決めたり、カップルが成立するためには、たとえば、休日に何をしているのか、どういったところに出かけるのかなどプロフィールカードの趣味の欄が重要であるという。

他県での同様事業にも参加したことがあるが、「出会いサポート」で良かった点は、先述のインプレッションカードによって、相手にどう思われているのか、つまり脈があるのかどうか事前に分かることであると考えている。

「出会いサポート」への要望は、参加人数は50名程度が限度で、出来ればそれ以下で開催して欲しいということである。また、神戸らしいおしゃれなレストランでの交流会も良いが、自然のなか、太陽の下で半日過ごすようなイベントを増やして欲しい。外を見れば話題は豊富にあり、また歩く調子を合わせてくれるかどうかなど、相手を見る基準にもなるという。

また、他県で参加したイベントの費用と比較して、「出会いサポート」は価格が高いと感じている。軽食が出ても、食べる時間はあまりなく、また食べることを目的にしている訳ではないからである。

それでも出会いのきっかけとしての交流会にはおおむね満足しており、現在ではもっと早くに参加していれば良かったと思っている。さらに、「県がやっているから大丈夫」と弟にも参加を勧めているが、弟はまだ二の足を踏んでいる。

その理由としては、「業者に頼む不自然な出会い」という意識を弟が持っているためであると考えており、dさん自身、参加する前は同じように感じていた。しかし、現在では合理的で良いシステムであり、自然なものとして受け入れられている友だちがセッティングした合コンと変わらないと受け止めている。

(2) eさんの場合

eさんは、30代後半の女性で、大学進学時から神戸市内で一人暮らしをしている。実家には父と母がおり、2歳下の妹も未婚で一人暮らしをしている。

長く交際していた人との別れを経験した後、eさんには普段の生活で異性と知り合うきっかけがほとんどなかった。特定の異性、友人、仕事という決まったサイクルのなかで生活していたが、その異性がいなくなり、そういう関係をどう広げていけばいいのかが分からなくなったという。

そんな時、あるテレビ番組で、「出会いサポート」事業があるということを知った。これまでの生活では知り合えない人と会えるかも知れないと感じ、ホームページで多くのカップルが成立していることを確認した上で、参加してみようと考えた。

ただし、同じ状況であったとしても、大学時代であれば参加を考えることはなかった。また、現在でも20代の時と同様に、たとえば合コンなど出会いの機会があれば、「出会いサポート」には参加してないという。

仕事が忙しく出会いの機会がない人もいることは分かっているが、こういった交流会に参加する人は自分で相手を見つけられないというマイナスのイメージを持っているからである。実際に参加すると、普通に彼氏や彼女がいそうな人がいる一方で、やはりコミュニケーションをとりづらいような人もいると感じている。

2007年の後半に入会したeさんは、これまで2度の交流会に参加している。ただし、2度ともいいと思える男性はいなかった。2回目に参加した時、良いと思える相手がいなかったため、カップル投票の際に何も書かずに用紙を提出した。それにもかかわらず、ミスが生じたために、カップル成立となったという。ミス自体はともかくとしても、デリケートな問題でもあり、もし相手が自分の番号を書いていたとすれば、その相手に申し訳ないと感じた。

そういった経験もあることから、カップル投票のシステムに疑問を感じている。もちろん、本当に良いと思って、第一希望同士でカップルになる場合もある。しかし、無理矢理カップル数を増やしたいという印象も持ったという。なぜなら、第二希望同士であってもカップル数にカウントされていたり、時間の制約などからフリータイムで話すことが出来る人数は数人に限られており、話した数人の番号を書けば自然とカップルになるからである。

また、最初に参加した際、一緒に行った友人は第二希望同士でカップルになり、メールアドレスの交換はしたものの、その後会っていないということを知っている。こうした点から、カップルになったとしても、その後につながりにくいと感じている。

交流会に参加しての印象としては、40～60分ほどの時間がかかるため、プロフィールトークで非常に疲れるということである。全員と会話しなければ相手を知ることが出来ないと思う一方で、誰が誰だか分からなくなるため、もう少し人数が少ない方が良いと考えている。

夕食時に開催された交流会で飲み物しか出なかったことがあり、それにしても参加費が高いと感じた。「出会いサポート」では、年齢や趣味などによる細かな参加条件が設定されていないため、これなら民間のイベントに参加した方が良いのではないかと思った。

しかし他方で、民間による同様なイベントについては、怪しさを感じてしまう。同じ会社であっても、県を通すことでなぜか安心感があるという。ただし、兵庫県がやっているという点で安心しているが、eさんが入会に際して提示した証明書は免許証のみであったという。会社名も書いたが、調べられた訳でもないのに、ウソをつけるのではないかと感じている。

eさんとしては、結婚を意識した交流会と、結婚を前提としながらも、もう少し軽い普通の出会いの場という2パターンがあっても良いのではないかと思っている。ただし、前者であれば結婚に際して人間性が重要であることは言うまでもないが、加えて家族構成や収入、職業、婚姻歴、子どもの有無などもポイントになるため、プロフィールカードの内容が簡単すぎると考えている。

(3) fさんの場合

fさんは両親と3人で暮らしている、30代後半の女性である。2歳上の姉は25歳で結婚し、妹にも職場などで出会いがあればと考えている。しかしfさんの職場では、男性の割合が1～2割であるため、あまり期待出来ないという。

結婚希望は持っていたものの、それに向けての努力をしてこなかった。民間の結婚支援事業は「商売でやっている」というイメージもあり、入会する気にはなれなかった。しかし、「出会いサポート」についての記事を新聞で見かけた際、「そんなに大金をとられるわけでもない」ので、話を聞くために出会いサポートセンターを訪ねた。

入会の決め手となったのは、兵庫県がやっているということだった。オーネットなどよく知られている大手企業なら大丈夫だとは思っていたが、県が実施しているということで、それ以上の安心感を持った。

2007年の前半に会員となったが、「出会いサポート」の交流会に参加したのは1度だけである。民間による規模の大きなイベントにも1度参加したが、話をしてはメールアドレスの交換をするものの、結局誰が良かったのか、誰が自分を気に入ってくれているのかが分からないまま終わった。

それに対して、「出会いサポート」のなかでも規模の小さな交流会であれば、全員と話すプロフィールトークがある上に、相手の自分に対する印象をインプレッションカードで知ることが出来る。そのため、機会があればまた参加したいと考えている。

それにもかかわらず、年齢制限があることで参加可能な交流会が非常に少ない。制限は仕方ないにしても、もう少し高年齢に設定した交流会を増やして欲しい。申し込むことが出来ても、抽選で何度も落ちている人がいるため、開催する回数も増やして欲しいと思っている。

見合いの経験もあるが、最初に釣書を交わし、素性が知れているという点で、交流会などより安心出来る。しかし、1人と会うためだけに半日が潰れてしまうため、相手によって楽しい時と疲れる時の落差が大きい。それに比べると、間に立ってくれた人に気遣いをする必要がないなど、交流会の方が気楽で良いと感じている。

一方で、参加後もそれ以前のこういった交流会に対するイメージは変わらず、良いなと思える人に出会うことはとても大変だと感じている。参加者の男性は、プロフィールカードがあるにもかかわらず、2分間が持たずに話が終わるなど、女性に慣れていない人が多いという印象を持ったからである。fさんにとって、交流会に参加する男性たちは、仕事が忙しすぎて出会いの機会がないというよりは、これまでに交際した経験がないというイメージであるという。

また、そういった形で受け止めていることもあり、交流会への参加は恥ずかしくて人に言えないこともある。参加後の現在では、少し薄くなったものの、それでも「出会いサポート」は結婚相談所と同様のものであり、そこでの出会いは「自然じゃない」「自分で探せない人たち」「結婚相談所は最後の手段」というイメージを持っている。

人の手が入り、自然じゃないという点で、友だちによる合コンと違いはなく、こういったイベントなどに対するマイナスイメージの原因は分からない。それでも、出来るなら自然なシチュエーションで出会い、付き合い、結婚したかったという。

交流会についての要望としては、いろいろな人を知ることが出来るシチュエーションを、スタッフに整えて欲しいということである。フリータイムでは席に座って話し始めると、結局正面の1人としか話せなくなるので、グループで話せるようにしたり、間に立って欲しい。また、5人対5人、10人対10人といったより小規模な交流会を希望して

いる。加えて、年齢や職業、婚姻歴など、交流会ごとの参加者をもう少し限定して欲しいと思っている。

参加した際にカップルとなり、その後何度か食事に行ったものの、普通に話す分にはいい人であるが、交際相手として見る事が出来ず、現在は会っていない。相手は最初に会った時から結婚したいという感じだったが、その段階でそう言われることに抵抗感があった。難しい点は、自分自身結婚を希望しており、そういうスタンスで交流会に臨むものの、最初から結婚のスタンスで来られると逆に引いてしまうということである。

交流会で知り合った同性との関係は続いており、「出会いサポート」について話すなかで、人数の多すぎる交流会に参加しても意味はないこと、年齢層が高めに設定しており、結婚を意識しやすい交流会が一番良いという結論に至った。



図 9：「出会いサポート」交流会会場例 1



図 10：「出会いサポート」交流会会場例 2

3. 民間による結婚支援事業「オーネット」会員

(1) g さんの場合

gさんは20代後半の男性で、現在会社の寮で一人暮らしをしている。7歳上の兄と5歳上の姉がおり、姉だけが結婚している。両親は兄には結婚するようと言っているものの、その兄がいるために、gさんに対しては何も言ってこないという。

工業高校、工業大学と女性の少ない進路を経てきており、現在勤務している職場にも、ほとんど女性がない。これまで、バイト先などで、異性と知り合う機会がいくらかはあったが、基本的に大学での勉強が忙しく、パチンコに行ったり、バイトに行ったり、勉強するという日々を繰り返していた。

職場の先輩や上司なども、日常的に業務で忙しいため、異性を紹介されたりする機会もない。最近では、帰宅時間が早くなり、午後8時頃には家にいることができるが、午前5時には起床して仕事に向かうという。

そういった状態のため、異性との出会いはなく、このままでは会社の奴隷になりそうな気がしている。会社では結婚しなければ一人前ではないという風潮があるため、既婚の先輩や上司と同じ土俵に立ちたいという思いもある。

20代の後半を迎え、周囲でも結婚する人が増えてきたので、そろそろまずいかなと感じ始めた。また1人でいることに疲れ、帰宅時に誰かに家いてもらいたいし、彼女がい

れば生活も変わるのではないかと思い、とにかく出会いが欲しいと考え、入会することにした。

入会前、家族や親戚に見合い話を紹介して欲しいと伝えたが、実家が遠くにあることや、次男であること、本気と見てもらえないことなどがあって、紹介してもらえる機会もなく、「オーネット」への入会を選択した。ただし、入会については親や家族など誰にも話していない。

入会してまだ1週間であるために、イベント等には参加していないが、データ検索はおこなった。居住地、年齢、学歴、婚姻歴、資格の有無などで検索をかけ、ピックアップされた人たちのなかから、好みの容姿の相手を選んだ。10人に絞るのも大変で、その作業自体楽しかったという。

すでにイベントへの申し込みをしており、どんな人がいるのかと、参加するのを非常に楽しみにしている。街を歩いている時、きれいな人がいても声をかけることは出来ない。しかし、そういったイベントでは、女性たちもそういう目的で来ているため、声をかけたり話したり出来るかも知れないからである。dさんは、イベントの場について、そういうことが「認められている関係」「話せる条件がそろっている」状況であると語る。

ただし一方で、参加してもその場で異性に話しかけることは出来ないかも知れないと感じている。これまで交際してきた人とは、バイト先などで知り合い、友だち関係を続けていくなかで、会話もスムーズになり、交際に発展してきた。そういった時間経過がなければ、コミュニケーションをとるのは難しいからである。

結婚すれば、生活の重心を仕事から家庭へと移し、パチンコもやめたいと考えている。しかし、基本的に家にいられる時間は短く、たとえば震災のような状況でも、家庭より優先して仕事に向かわなければならないという会社であり、職場での離婚率も高いという。そのため、弱い人では困るし、しっかりとした強い相手を望んでいる。

(2) hさんの場合

20代後半の女性・hさんは、すでに実家を離れて暮らしている5歳下の弟をのぞき、父、母、妹の4人で暮らしている。父から「嫁に行くにも何にしても、知らない会社よりも、世間一般に知られてるような会社に入ってる方が良い」と言われていたこともあり、現在、いわゆる一部上場の企業に勤務している。

職場では15～20歳ほども離れた男性しかおらず、また現在では友だちからの紹介や合コンもあまりなく、出会いはない。幼い頃は、父が転勤族であったため、各地を転々としていた。そのため、友人関係が浅く広く、その点でも出会いを逃しているのではないかと考えている。

月曜から金曜までフルタイムで働いており、定時は17時半であるものの、早くても18時半、遅ければ21～22時まで残業がある。また通勤に1時間半ほどかかるため、午前5時半には起きて仕事に向かう日々である。そのため、土日は休んでいたいという気持ち強い。

そういった状況のなか、ある程度の年齢になってきて、親戚が集まった時などに結婚や子どものことを言われることに鬱陶しさは感じていたものの、hさん自身は特に焦りを感じていた訳ではなかった。会社でも上司や同僚に「結婚はしないの?」「結婚はいいよ」と言われることがあるが、離婚した人もけっこういるため、説得力がないと感じている。

入会したきっかけは、半ばいやいやながら母親に連れて来られたことである。しかし、入会后4ヶ月を経て、周囲の友だちの結婚や妊娠、会社勤めに疲れてきたことなどから、結婚相手を探すことにやる気が出てきた。「オーネット」に入会してから、こういった事業に対するイメージが変わった部分としては、日常生活では会えないタイプや職業の人と出会える場所だと分かったという点を挙げている。

hさんとしては、プロフィールや写真だけでは分からないことがたくさんあること、メールの文章では冷たく見える場合もあることなどから、直接会って話す必要があると考えている。ただし、知らない人のなかに自分が入られるということに怖さや不安を感じるため、パーティやイベントなど、対面する機会・場は苦手であるという。

それに加えて、学歴や収入などある程度の理想の条件を持っている。学歴については自分自身が短期大学を出ているため大学卒業以上、収入についても少なくとも自分以上の相手を希望している。イベントではいろいろな人に会える一方、最初の時点では相手の条件や情報が限られているので、データから入る方が自分には合っていると考えている。

そのため参加したイベントは、原則として新会員が参加するウェルカム・パーティただ一度だけである。そのパーティは参加者が400~500名という、非常に規模の大きなものだった。会場では男性たちが年齢層によって二分されており、35歳までと36歳以上のグループに分かれてテーブルについている。女性は、希望する年齢層のテーブルに向かうという形である。

イベントは司会者によって進行され、プロフィールトークと同様の時間も用意されている。当然、全員と会話することは出来ないため、いいなと思える相手に近づいてプロフィールカードを交換し、5分ほど会話して相手を交代するということを繰り返す。軽食を食べながら会話する時間においても、カップルになって話している人がいる一方で、男性同士・女性同士で固まっている人たちも多かったという。

しかし、結局誰が誰かも分からないままで終えることとなり、人が多すぎるのも困りものだと感じた。hさん自身、極度に緊張しやすいこともあり、今後イベントに参加するとしても、10人对10人くらいの小規模なものを希望している。

ただしhさんは、そのイベントで男性とカップルになることはなかったが、隣に座った女性と話をし、年齢が近かったこともあって仲良くなり、現在でも情報交換などを続けている。もともと希望して入会した訳ではなかったが、強い味方が出来たと感じており、安心感が高まったという。

(3) i さんの場合

iさんが育った家庭では、おおらかに子ども育てようという母親に対して、父親のしつけは非常に厳しく、子どもの頃から、箸の上げ下げや挨拶の仕方、電話の取り方まで、指導された。高校時代の門限は夕方5時で、やりたいクラブ活動も出来なかった。

そういった門限などを律儀に守るiさんに対して、2歳下の妹は正反対の性格で、門限などまるで守らなかったという。高校3年の時に父親が他界し、自由になりたいと考えて、就職するとともに一人暮らしを始めた。現在のiさんは30代後半の女性で、神戸で一人暮らしをしている。妹はすでに結婚しており、母親は京都で暮らしているため、月に一度は母の様子を見に行っている。

母親と妹は、本人以上にiさんの結婚を心配しているという。その理由として、20代半ばに一度結婚したが、相手にギャンブル癖があったため、3年ほどで離婚したことがある。iさんは、離婚を経験したことがショックで、また同じことを繰り返すのではないかと、なかなか恋愛をする気持ちにもなれなかった。

「オーネット」に入会したきっかけは、いくつかの偶然が重なったことであると語る。勤務している会社は男性の割合が高いものの、噂をたてられるなどの可能性があり、社内恋愛はしたくないと考えていた。また、日常生活は家と会社の往復で、異性との出会いはない。そのため、以前「オーネット」の支社を訪れ、説明を聞いたことがあったが、当時は会費が高いと感じたため、結局は入会しなかった。

ところが、その後、仮置きの状態になっていたデータの保存期間と、失恋をしたタイミングが重なったため、交際相手がなくなった直後に「オーネット」から連絡が入った。これも何かのきっかけだと考えて入会したiさんは、「失恋がなかったら、入会していなかったも知れない」と話す。

また、いろいろ調べた結果、現在では「高い方が安全だと分かった」という。素性のはっきりしており、安定性のある、きちんとした人を紹介してもらうためには、「ただより怖いものはない」「安いほど怖いものはない」と考えるようになった。

入会してから、2年近くが経過しており、これまで3回ほどイベントに参加している。大人数のイベントでは緊張するため、入会后、最初のウェルカム・パーティは無料であるにもかかわらず、参加しなかった。

これまで、8人对8人といった規模の小さなもののみを選んで参加している。こういったイベントでは、基本的に、プロフィールトークがメインになるという。ただし、人数が非常に少ないため、それぞれの相手と1分半～2分ではなく、10分程度の時間がある。

この場合も、やはりプロフィールカードを交換し、好きなテレビや映画、食べ物、趣味などさまざまな話をするようになる。iさんは、このプロフィールカードがあるために、話が途切れることはなく、趣味が一致した場合などは特に会話が盛り上がりやすくなる。そしてその時のメンバーによっても異なるが、そのままグループでカラオケなどに行く場合もあれば、個々に誘いを受けて喫茶店や食事に行くこともあるという。

ただし、親に何かあった際にすぐ駆けつけることが出来るような近距離の人を望んでいるiさんにとって、イベントでいいなと思える人がいても、データが分からない点は

難点である。また、ぜひもう一度会いたいと思えるような、ときめきを感じられる相手とは、これまで出会えなかった。

「オーネット」を通して出会った人と二人で出かけたこともあったが、それ以上には発展しなかった。その理由として、相手が「ちょっとおたくっぽかった」という点を挙げている。「自分の世界」を持っている部分は良かったが、自作の歌を録音して聞かされるなど、こだわりが強すぎたことに困ってしまった。

それでも、「オーネット」のシステムにはおおむね満足しており、特に改善して欲しい点などはないという。

(4) jさんの場合

jさんは20代後半の男性で、両親と3人で暮らしている。3歳下と6歳下に妹がいるが、二人とも独身ですぐ近くの祖父宅に住んでいる。jさんの父親は非常に家庭を大事にする人で、何事につけても家族をメインにしていた。その父親の影響を受けて、仕事をするにしても自分のためではなく、家族のためにがんばりたいと考えており、昔から早い結婚を望んでいたという。

しかし、技術系の仕事をしているため、職場での出会いも少ない。仮に出会いがあっても、同じ職場では給料などが知られてしまうこと、別れた場合お互いが嫌な思いをする可能性もあることなどから、職場恋愛は望んでいない。

男性の場合は、職場恋愛の相手と別れたとしても、「つらくてもつらいと言えない」し、男は「黙って耐えるしかない」と考えている。ただし、女性にとっては、異性関係で陰口を言われるのは可哀想であり、普通の男はそこまで考えて、職場恋愛は避けるべきだと思っている。

また周囲の友だちは、ほとんどがすでに結婚しており、合コンに誘ってもらったり、異性を紹介してもらったりということも期待出来ない。そういった状況のなかで、自分の結婚は遅くなってしまったと考えている。

そんな折、インターネットでいくつかの結婚支援事業について見ていたが、「オーネット」のウェブサイトで連絡先を記入したところ、担当の人からの連絡を受けた。その担当者がとても元気でテンションの高い人であったため、雰囲気の良い、いいところだと感じた。また、説明を受けるために支社を訪れ、3時間ほど話を聞いたが、その時間も楽しかったために入会を決めた。

jさんは入会してからまだ1ヶ月程度が経過したばかりだが、一度、ケーキバイキングを兼ねた男女合わせて12人という小規模なパーティに参加した。それぞれの相手と、10分ほどのプロフィールトークの時間があったが、相手によって会話が弾む場合と弾まない場合の差が激しかった。

それでも、データよりも会ってからの相性が大切だということ、また、「いろんな人との会話とか、どういう風な流れにもっていったらいいのかとか、こういう話は食いつくのか」といった点で勉強になると感じた。

すでに「オーネット」を通して3人の女性と会っているが、最初の2人とは、会話が

続かず、何を考えているか分からないと感じ、合わないと思った。3人目の女性とは、「イントロG」と呼ばれる情報誌を通して、1週間ほど前に出会った。「イントロG」とは、「オーネット」会員のプロフィールを掲載した冊子で、たくさんの会員のなかから会いたいと思う人を探し、交際を申し込むことが出来る。

その女性とは、初めて会ってから毎日電話やメールのやりとりをするとともに、これまでに3度会っており、jさんはすでにその女性と将来の結婚を決めている。「出会いが特殊なんで、普通の交際よりはだいぶ早いかも知れない」と語り、仲良くなるのも早いと考えている。jさんにとって、知り合って、付き合い始めた彼女のことを一生幸せにすることは、「男の責任」であり、プライドであるという。

入会前、「オーネット」など、結婚支援事業についてのイメージは特に持っていなかったため、入会後もイメージの変化はなかった。しかし、「オーネット」への入会はまだ友人たちに知らせておらず、結婚後も一番仲の良い友人くらいにしか話さないつもりでいる。

なぜなら、こういう事業に対して偏見を持っている人もいるからである。jさんは、そういった偏見を持っている人たちは、結婚支援事業と出会い系サイトを混同していると考えている。

jさんは、「オーネット」に対しては、とてもありがたく思っており、満足しているため、特に不満や要望などはない。担当アドバイザーからはこまめに連絡が入り、心配されているということ強く感じた。また自分からも何度か相談の電話をかけたという。出会い系サイトなどとの違いは、本気で相手を探している人、本気で幸せになりたい人が集まっている点であると考えている。

第2節 結婚支援事業の課題

ここまで、「こうのとりの会」および「出会いサポート」を中心として、結婚支援事業のあり方およびその受け止められ方について検討してきた。本節では、以上の質問紙調査および聞き取り調査の結果から、結婚支援事業が抱えるいくつかの課題を示す。

1. 抵抗感の問題

結婚支援事業が抱える最大の課題は、こういった事業に参加することが、強い抵抗感を伴うものであるという点である。民間の結婚情報サービスの会員に対する調査では、男性会員の59.1%、女性会員の73.1%が、入会にあたり抵抗感を感じたと答えている(大瀧 2003)。

「こうのとりの会」および「出会いサポート」の参加者においても、同じ傾向が見られた。まず、「こうのとりの会」については、青少年本部に依頼し聞き取り調査への協力者を募ったが、なかなか協力を得られなかった。また、「出会いサポート」については、交流会での質問紙調査に際して、協力者を募ったが結果は同様だった。

幸い、協力を得られた対象者からスノーボール方式で調査協力者を開拓出来た。しか

し、結婚という非常にプライベートなことにかかわるため調査協力を得にくい側面があるとはいえ、入会をためらう人にはもちろん、参加者の間でも、こういった事業に対する抵抗感がある程度共有されているということが、大きな要因であると考えられる。

聞き取り調査においても、「このとりの会」会員の 20 代後半の女性である b さんは、同性の参加者から次のようなことを言われたと語っている。

b さん：女性の参加者の方は、見た目が若く見えるので、私、年齢を聞いた時にびっくりするんですよ。同じ歳くらいと思って聞いたら、年上だったので。

それで、若いのにこんなところに来なくても…というふうに言われるんです。こういう場所に来なくても、相手が見つかるでしょうみたいな感じで言われます。

相手の女性から見れば若い b さんは、「こんなところ」「こういう場所」に来る必要がないという。この語りから、b さんに話しかけた女性の結婚支援事業に対するイメージがうかがえる。参加することに抵抗感が伴う背景として、「こんなところ」というややネガティブなイメージで捉えられているということが挙げられるだろう。

また、「出会いサポート」のスタッフである F さんは、交流会の参加者のなかには、参加することが人に知られることを恥ずかしがる人がいることを指摘している。

すでに述べたように、「出会いサポート」交流会の参加者は、当初の対象であった団体会員より、個人として登録している準会員の方が多くなっている。F さんは、このような状況になっている理由の 1 つとして、参加を周囲に知られることを嫌がる人が多いという点を挙げているのである。

団体会員の場合は、交流会への参加申し込みをする際に、会員団体ごとに割り振られている会員番号が必要になる。したがって、会員団体となっている企業もしくは部署で、その番号を教えてもらわなければならない。つまり、会社や部署の誰にも知られずに参加するということが難しいのである。

たとえば、「オーネット」会員の j さんは、入会前は結婚支援事業に何のイメージも持っていなかったと語る。それにもかかわらず、こういった事業に対して偏見を持っている人がおり、そのために結婚してもこういった事業で出会ったことを伏せておいた方がいいと考えていた。

「出会いサポート」に参加している f さんも、交流会への参加は、恥ずかしいことであるために、あまり人には言えないと語る。その理由として、「自然な」出会いではないからであると述べている。

f さん：何かねえ、何かやっぱり自分で探せないみたいな、イメージがあって。自然じゃないみたいな。そんなことは関係ないやと思って入ったんですけど。

やっぱりこれまで、この歳まで何もそういうのに入ってなかったっていうのは、もうちょっと自然なシチュエーションで出会って付き合って結婚したいって思っている。

まあ、そんな夢みたいなことなんですけど、でも何か、結婚相談所とかがっていうのは何か最後の手段みたいな、そういうイメージなんですよ。

fさんの語りから、「出会いサポート」を通じた出会いは自然なものではないということに加えて、「自分で探せない」人たちにとっての「最後の手段」というイメージと結びついていることがうかがえる。

また、「出会いサポート」会員のdさんは、男性ばかりの職場で働く弟にも参加を勧めている。しかし、弟は「出会いサポート」など、他者の介入がある出会いは、「自然な出会いに欠ける」と考えており、参加しないという。

dさん自身は、現在では友だちがセッティングした合コンや飲み会とあまり変わらないと認識している。しかし、参加するまでは弟と同じように考えていたという。

dさん：「出会いサポート」は、もう、すごいセッティングされてるじゃないですか。でも、友達同士でセッティングするコンパとあんまり変わらないよっていうのが、私の行った時の感想なんです。ただ、行く前は、「そんな業者に頼んでまで」というのがあるとと思うんですね。

業者とか、他人におぜん立てされてまでっていう。友達のセッティングした合コンやと自然に見えるんですけども、こういうところはおぜん立てっていう意識が強いですね。でも、どっちみち一緒なんですけどね。

2. 信頼性・安心感の問題

結婚支援事業が抱える課題の2点目としては、信頼性および安心感の問題が挙げられる。事業に対する信頼感が持てなければ、会員になることや、交流会に参加することへの抵抗感が強くなるという点で、上述した抵抗感とも関連する問題である。

こういった問題は、参加者にとってのみではなく、事業を実施する側にとっても大きなものとなっている。Dさんが代表取締役を務める会社は、出会いの場を提供するイベントをおこなっている。また、協賛団体として「出会いサポート」の交流会運営にも携わっている。

そのDさんは、こういった事業を実施している会社のなかには、「お金もうけだけ」「売春行為がおこなわれる」「出会い商法で、宝石や毛皮を売る」といった犯罪に絡むようなところも少なくないと語る。そしてそのために、出会いのパーティやイベントをおこなう業界において、参加者からどのように信頼を得るかが非常に重要な問題となっているという。

Dさん：パーティって、何かいかがわしいんじゃないとか、パーティ会社は本当に堅気の人がやってるのというイメージを持たれているんです。そういう印象を持っているお客さんが、やはりまだまだ多いので、いかがわしいと思われないようにしないといけない。

僕たちのパーティでもたくさんの方がご結婚されて、結婚の報告とかをいただくんです。ただ、やはりまだまだ、本当に出会いを求めている一部の人しか集まってこないの。

広く出会いを求める方に来てもらうには、やっぱり安心感がいる。で、兵庫県の仕事を

させていただいている分に関しては、基本的にはやっぱり安心感を与えられるので、プラスの部分があります。

「このとりの会」および「出会いサポート」の参加者たちのなかで、民間の結婚支援事業の会員にはならないという声が聞かれたように、「公」が関わっていることによって、信頼感を持つ人がいる。

たとえば、「出会いサポート」の会員であるeさんは、たとえ同じ会社が運営していても、兵庫県を通すことでなぜか安心感があると話していた。この点で、イベント会社が兵庫県の事業に関わることには、メリットがあるという。

また、Dさんは同時に自分たち「プロ」が関わるために、交流会の進行がスムーズになり、モタモタしないとも話す。参加者に対する質問紙調査において、「遊びではないのですから、もう少し実のある進行を期待しています」といった声があり、スムーズな交流会の進行が求められていることが分かる。つまり、イベント会社に運営を任せることは、事業の実施主体である兵庫県にとってもメリットがあると言えよう。

ただし、県が実施していても、必ずしも信頼性を確保出来るという訳ではない。たとえば、「出会いサポート」参加者のeさんは、友だちの紹介とこういった事業とを比較して、次のように述べている。

eさん：兵庫県がやってるから安心感っていうのもあります。でも、友達の合コンの方が、まだ相手の素性が知れてるんですね。素性っていうか、友達の友達だからあいつはいいよっていうのがわかるんですね。

それで、あいつはこういう人間だとか、何かあったとしても相談できたりとかしやすいかなと思うんですね。自分の友達の友達だと、やっぱり似てるっていうか、特に変わった人はいないのをお互いが紹介するじゃないですか。ここに参加してる男の人には、その信頼性がないんですよ。

3. 男女の違いの問題

参加者および事業者のいずれからも出された点として、参加する男性と女性で意識の格差などが大きいということが挙げられていた。「このとりの会」スタッフであるCさんによると、男性と女性では、交流会においてカップルになるということの意味や重みがまったく異なるという。女性にとっては最初の1歩であるのに対して、男性の意味づけは重く、特に郡部出身の男性については「結婚という文字を背負ってきている」と述べる。

この男女の温度差については、「出会いサポート」の協賛団体として関わるDさんの見方も同様であり、より明確に次のように話している。

Dさん：男性は、カップルイコールもうつき合えると思ってる人が大半です。でも、女性はカップルイコールちょっとお茶してもいいぐらい。これぐらいの差がありますんで。

先に述べたように、「このとりの会」に参加した b さんは、交流会でカップルになった相手と別の機会に会った際、いきなり手をつなごうとされて抵抗感を感じたと話していた。「交流会でカップルになる」ということの意味が、男性と女性では大きく異なっていることを示す例と言える。

このような違いが背景にあるために、男性からは「何度も連絡しているのに、返事が来ない」という相談や、「カップルになったのに、その後会ってもらえない」という苦情が、事業を実施している兵庫県青少年本部に寄せられるという。

また、問題は温度差があるということにとどまらない。「出会いサポート」スタッフの E さんは、「女性と男性のレベルがあいている」という点を指摘している。E さんは、女性の参加者に対して、「何でこんなとこ来はるんですか」と感じるとともに、「もうちょっと自分でどこかに行けば、すぐに相手が見つかりそう」だと思っている。

「出会いサポート」のスタッフである F さんも同様に、「女性は余り問題ないと思うんですよ。これで、男性がもうちょっとレベルアップしてくださったら、うまくいくんじゃないか、結構よくなるんじゃないかな」と考えている。以前「このとりの会」のスタッフをつとめていた F さんは、いずれの事業においても、ファッションからコミュニケーション能力、交際の仕方に至るまで「男性のスキルアップ」が問題であると述べている。

F さん：やはり男性は、外見も含めてもうちょっと努力してよ、と思いますね。「このとりの会」は特にね。交流イベントって言えば、やはり女性の方はそれなりにドレスアップをしたりして、来られるじゃないですか。そしたら、やはり男性もそれに見合うだけの格好して来なさいよって思うんです、私の場合は。まあ外見だけじゃないけども。

あのね、今でこそ、ましになりましたけど、クリスマス・パーティは、大概ホテルを借り切ってするじゃないですか。それに、ジャージはないでしょ、ジャージは。彼らにとっては、それなりのブランドのジャージだと思うんですよ、外出用の。

ただね、ジャージはジャージじゃないですか。スーツではないじゃないですか、ジャケットではないじゃないですか。その辺のところ、やっぱり履き違えてると思うんですよ。だから、もう本当に、ガクってして、えっ、オリエンタルホテルにその格好で来る、とかって思うわけですよ。

ただし、F さんは「このとりの会」や「出会いサポート」の男性が特にそういった面で問題を抱えているのではないと考えている。むしろ女性に比べると、多くの男性はおしゃれなどに気を遣うことが少ないため、その縮図が事業の参加者にも現れているのだという。

男女で違いが見られるという傾向は、民間の結婚支援事業でも同様であり、こういった F さんの考えを支持していると言えるかも知れない。「オーネット」スタッフの G さんは、次のように話している。

Gさん：お役所仕事ではありませんので、皆さんに喜んでいただけるように、常に成果も出さないとはいけません。このごろの男性なんかは特にコミュニケーション能力の低い方も多いですから、そういう方向けに「出来る男のためのセミナー」とか、いろいろ総合的に支えていけるようなこともやっていますね。

4. 参加者から見た運営面の問題

4点目の課題として、「このとりの会」および「出会いサポート」の交流会運営上の問題が挙げられる。ここでは参加者たちが運営に関してどのような受け止め方をしており、どういった要望を持っているのかについて、主に質問紙調査での自由回答項目から見ておきたい³。

実施した質問紙調査では、「『このとりの会』および『出会いサポート』に対して満足している点、不満な点、ご要望などがあれば、ご自由にお答え下さい」という項目を準備している。有効回収数294票の内、85件について自由回答が記入されていた。

まず、いずれの交流会においても、年齢幅などについての要望が見られた。たとえば、「年齢制限をもう少し上げてほしい」（40代後半・男性）、「年齢幅を狭く設定した会も開いて欲しい。特に女性をフリーにすると、年齢の若い方が多いイベントに参加してしまった場合（当日、参加してみても）気おくれます」（30代後半・女性）という意見が寄せられている。

一方で、「女性の参加年齢制限が高いものが多い。低いパーティを多く増やしてほしい」（30代前半・男性）、「もっと20代同士の交流会をひらいて欲しい」（20代前半・女性）といった要望も見られた。

また事業別に見た際には、「このとりの会」については「もっと回数を増やしてほしい」といった交流会の開催数や、「但馬での開催を今後ふやして下さい」という開催地域についての要望が多い傾向が見られた。

それに対して「出会いサポート」では、まず、参加費用に関する不満が多い傾向があった。具体的には、「公民館など使用し参加料をもう少し安くするべきだ」「会費を安く！！」といった意見が寄せられている。

その他、「出会いサポート」参加者の回答によく見られるものとしては、「1対1の対話の時間が短い」など、交流会の時間をもっと長くして欲しいというものや、「男女各20名とかでなく、各5～10名等少人数であれば、もっとゆっくり奥深い内容も話せると思いますが」など、参加人数を少なくして欲しいという要望が挙げられる。

³ 実施した質問紙調査の調査票および、自由回答項目に記入された回答内容については巻末の資料編を参照されたい。交流会の参加者の中には、さまざまな希望や要望を持つ人がいる。もちろん、兵庫県の事業として実施されており、予算や人員の問題から応えることの出来ない要望や、場合によっては応える必要のないものもあるかも知れない。しかし、たとえば「出会いサポート」の準会員制度は、参加希望者たちからの要望に応える形で作られた。それによって現在では、準会員の交流会参加者数は、団体会員を上回っている。つまり、要望に応えたことが、参加者数の増加や満足度を高めたと言えるだろう。

第5章 結婚支援事業の今後に向けて

本章では、まず参考事例として、他府県で実施されている結婚支援事業について概観する⁴。そして、前章で抽出した課題と関連づけて、課題を解決する方向を模索する。最後に、本報告書を締めくくるにあたって、結婚支援事業の今後に向けての提言をおこなう。

第1節 他府県における結婚支援事業

1. 静岡県榛原郡川根本町「ちゃつきり娘養成講座」

(1) 事業の概要・現状

静岡県榛原郡川根本町で実施されている「ちゃつきり娘養成講座」は、「農業・農村理解をかねた農業後継者の出会い事業」であり（日本青年館結婚相談所 2008: 43）、2006年4月から始まっている。農山漁村男性を対象とした過疎対策である「このとりの会」に通じる事業目的を持っていると言える。

この事業では、土・日曜の一泊二日という形で、年間10回の講座が実施されている。主な内容は農業体験であり、畑作りから種まき、草取り、収穫まで一連の作業をおこなっているが、それとともに、ハイキングやカヌー教室、パーティといったイベントも実施されている。

女性については、原則として静岡県内在住の20歳～45歳の独身女性で、農作業体験および地元の人との交流希望者を募集している。男性は、「町内の皆さん！（特に独身男性の方々）」という形で、主に川根本町内の独身者を対象としている。

2006年度は女性15名の募集に対して16名の応募があり、2007年度についても17名の参加があり、それぞれ10回にわたる講座が実施された。ただし、現在のところ、事業を通じての成婚カップルは生まれていない。

(2) 事業の特徴

兵庫県における「このとりの会」および「出会いサポート」と比較した際、この事業が持っている特徴として、次の2点が挙げられる。

第一は、1度きりのイベントではなく、年間を通して10回程度の農業体験に同じ参加者が集まるという点である。上述したように、結婚に至ったカップルは生まれていないものの、交流の結果、川根本町の男性と町外の女性が仲良くなり、講座とは別に飲み会などが開催されているという。

イベントを通して知り合った人たちが、自発的な集まりを開いているということは、

⁴ 2008年2月23日～25日に実施された「全国結婚研究会議どうなる結婚の未来～若者主催の出会い事業の意味と効果～」において配布された資料、会議でのコメント、および会議に参加していた事業関係者から後日提供を受けた資料を参照する。

良好な人間関係が形成されていることを示していると言えるだろう。また、参加女性に対するアンケートで、「3回目位から、かなり盛り上がりを見せていて、よかったです」「回を重ねるごと慣れてきて話がしやすくなりました」といった回答があり（日本青年館結婚相談所 2008: 50）、継続的な事業のなかで徐々に関係が育まれたということが分かる。この点は、1度だけ開かれるイベントでは、なかなか見られない特徴である。

また第二は、20～45歳の「独身」女性を対象としながら、「縁結び事業」であることは一切表に出していないという点である。以下の図11および図12は、「ちゃつきり娘」と呼ぶ独身女性および、主に独身の男性を想定した「援農サポーター」の募集要項である。

いずれの要項においても、いわゆる「お見合い」事業とは異なる旨が明記されている。町外の独身女性に対しては、「この事業は、独身の女性の皆様を対象にしていますが、いわゆる『お見合い』的な事業とは違います。あくまで、この事業を通じて地元の方たちとの交流を深めていただき、仲良くなっていただくということを目指しています」という形で広報している。

町内の男性に対しては、「援農サポーターは、農業や自然のことを知らなくても、この事業の活動を通じて女性の皆さんとの交流や、一緒にいろいろなことを覚えたり体験しようと思う方であれば男女どなたでも参加OKですが、特に独身の男性の方々の参加をお待ちしています」と示している。

このような2点の特徴を持つ背景には、町を好きになってもらい、広い意味での縁形成を図るということや、自然な形のなかで交流を深めてもらうということ、すぐに結果を求めないという考え方がある。

参加女性へのアンケートからは、この事業がおおむね肯定的に受け止められていることがうかがえる。ただし、「縁結び」の側面を表に出していない一方で、「農業・農村理解をかねた農業後継者の出会い事業」であるために、「縁結び事業がメインだと知らず少しおどろきました。縁結び事業を色濃くしたゲームはいきなり手をつないだり、子供ではないのでイヤでした」といった回答も見られる（日本青年館結婚相談所 2008:49）。

◇ 誰かに背中を押される前に、思い切って参加してみませんか！ ◇

～田舎暮らしの学校 ちゃつきり娘養成講座～ 「ちゃつきり娘」を大募集！

川根本町では、都市部に住む独身の女性の皆様を対象に、平成20年度も農作業体験事業の参加者、「ちゃつきり娘」を募集します。日常生活から離れ、山の農業や自然・採れた野菜などを使った加工品作り等々、四季折々の「山の暮らし」を体験してみませんか。週末だけの田舎暮らし(カントリーライフ)を、地元の父ちゃん・母ちゃん・兄ちゃん・姉ちゃん達「援農隊」が、時にはやさしく、時には厳しくサポートいたします。そして、この事業は、農作業や地元の方々との交流を通して、川根本町を好きになっていただくことを目的としています。例えば、「田舎暮らしに触れてみたい・・・。見知らぬ土地で自分を見つめなおしてみたい・・・。野良仕事をとことん覚えたい・・・。大自然の中で日頃のストレスを発散したい・・・。自分の作った野菜を思う存分食べてみたい・・・。」などと思っている方。

■主催：川根本町（担当課 企画環境課 まちづくり係）

■アクセス：電車利用 JR金谷駅から大井川鐵道に乗り換え、下泉駅下車（所要時間約50分）。役場まで、町営バス利用にて約10分。
 自家用車利用 島田方面からは、国道1号から県道島田川根線（77号）を北上し、旧金谷町方面からは、国道1号から国道473号を川根方面に向かって北上し、いずれも国道1号から川根本町役場まで約45分程度。

■町の環境：川根本町は、静岡県中央部を流れる大井川の中流域、南アルプス国立公園の玄関口に位置し、総面積496.72km²のうち、山林が94%を占める山村です。人口は約9,000人で日本一の「川根茶」と「SL」と「温泉」の町として全国的に知られているほか、南アルプス国立公園の玄関口として四季折々の自然豊かな地域です。

■募集期間：平成20年2月18日（月）～3月21日（金）

■参加費用：年間を通して3,000円（保険料・通信費など）
 ※ただし「参加者の方々はお客ではなく、地域の一員」という考えから、原則的には交通費・食費・交流会費・宿泊費等は参加者の自己負担になります。

■募集定員：原則として県内にお住まいの概ね20歳から45歳までの独身の女性で、真剣に山村での農作業体験と地元の方々との交流を希望する方。先着15名で締め切りとさせていただきます。

■体験内容：下記の予定ですが、基本的に1回につき、土・日の1泊2日になります。

回数	期日	活動場所等	体験内容
1	5月（下旬）	役場・茶工場 他	歓迎式 1番茶の茶摘み など
2	5月（下旬）	町内畑・山 他	夏野菜種まき・新緑ハイキング など
3	6月（下旬）	町内畑 他	畑管理 梁物体験 など
4	7月（下旬）	町内畑・川 他	畑管理 温泉入浴 カヌー教室 など
5	8月（下旬）	町内畑 他	畑管理 秋苗植作業・料理 など
6	9月（下旬）	町内畑 他	畑管理 夏野菜収穫・お茶料理 など
7	10月（中旬）	町内畑 他	畑管理 手揉み茶体験 など
8	11月（中旬）	町内畑・山 他	秋野菜収穫 紅葉ハイキング など
9	12月（下旬）	町内畑 他	畑管理 饗茶会・蕎麦打ち など
10	2月（下旬）	町内畑・役場 他	手づくりパンに挑戦 閉講式 など

※ 体験内容は変更になる場合がありますので、ご了承下さい。
 ※ 原則として、土曜日の午後集合・日曜日の午後解散になります。
 ※ 野菜の一例（自分で作りたい野菜を選択する方式を予定しています。）
 大根・キャベツ・玉ねぎ・トマト・きゅうり・サツマイモ・大豆・ナス・枝豆・トウモロコシ・ほうれん草・ハクサイ・オクラ・カブ・にんじん・・・など

■注意事項：◎ 参加者の方々も「お客さん」としてではなく、地域の一員というお気持ちで農作業等を行っていただきます。
 ◎ この事業は、独身の女性の皆様を対象にしていますが、いわゆる「お見合い」的な事業とは違います。あくまで、この事業を通じて地元の方々との交流を深めていただき、仲良くなっていただくことを目指しています。
 ◎ 普段の畑の管理につきましては、町で責任を持って行います。
 ◎ 原則として、雨降り（豪雨・台風等は除く）でも、曇くても、寒くても農作業は行う予定です。
 ◎ 参加された方には、年間の参加回数に応じて、町から特産品のお茶等をプレゼントさせていただきます。
 ◎ 基本的に、週末土・日の1泊2日で参加していただけます。宿泊施設につきましては、町内にはホテルや旅館・民宿がたくさんあります（1泊朝食付で4,500円～6,500円程度。）が、参加者の皆様にはそちらをご案内させていただきます。（町内で地元の方と仲良くなれば民泊もできますよ！）

■申し込み・お問い合わせ先：

申し込みにつきましては、裏面の申し込み用紙（川根本町のホームページにも様式を掲載してあります。）に必要事項をご記入の上、3月21日（金）までにFAX、郵送、又はE-mailにて、下記にお申し込み下さい。（先着15名で締切です。）お電話の場合は、後日申し込み用紙をお送りさせていただきますので、ご記入後に返送して下さい。

〒428-0313 榛原郡川根本町上長尾627番地 川根本町役場 企画環境課 まちづくり係
 電話 0547-56-2221（FAX 0547-56-2235）
 E-mail kikaku-kankyou@town.kawanehon.shizuoka.jp
 ホームページURL http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp

図 11：「ちゃつきり娘」募集要項

平成20年度 ちゃっきい娘養成講座

援農サポーターを募集します！

◇ 町内の皆さん！ （特に独身男性の方々） ◇

農作業やイベントを通じ、町外の女性と交流しませんか♪

川根本町では、平成18年度から町外の独身女性を対象に農業体験事業、「～田舎暮らしの学校 ちゃっきい娘養成講座～」を行なっています。この事業は、1年間を通じて農業やイベントなどを通じ、川根本町の魅力をアピールしていこうということで取り組んでいますが、昨年度は17名の20代から40代までの女性が参加し、10回の講座を楽しく行ないました。（裏面もご覧下さい。）

この事業の目的は、農業体験やハイキング・カヌー体験活動などを通じて都会の女性に川根本町の様々な魅力を知っていただき、将来的には川根本町に移住・定住をしてもらえるような気持ちになっていただくことを目的としています。

そこで、地域の多くの皆様に、ぜひ援農サポーター（農作業等のお手伝い・ハイキングなどの地元の案内役）として参加していただき、都会の女性の方々に農業の楽しさや、四季折々の町の魅力などを教えてあげたり、一緒に楽しんでもらいたいと考えています。

援農サポーターは、農業や自然のことを知らなくても、この事業の活動を通じて女性の皆さんとの交流や、一緒にいろいろなことを覚えたり体験しようと思う方であれば男女どなたでも参加OKですが、特に独身の男性の方々の参加をお待ちしています。（年度の途中からの参加もOKです。）

- 募集期間：平成20年3月3日（月）から3月21日（金）まで
- 募集定員：15名程度（町内にお住まいの方なら特に制限はありません。）
- 事業内容：活動内容は、農林業センターでの農作業のお手伝いを中心に、自然体験ハイキング、カヌー体験、収穫した野菜等を使っの郷土料理や原則的に毎週夜に行なわれる交流会への参加など、いろいろな活動を一緒に楽しんでいただくことです。（この事業は、いわゆる「お見合い」企画ではありません。）もちろん、全日程参加できなくても、ご自分のご都合に併せて参加していただければ構いません。
- 参加費用：基本的には無料ですが、歓迎会・交流会（参加自由）の費用や、現地までの交通費、事業中での食費などは自己負担となりますのでご了承下さい。
- スケジュール：下記の予定ですが、毎回週末土・日の2日間の開催になります。（変更になる場合があります）

回数	期 日	活動場所等	体 験 内 容
1	5月（上旬）	役場・茶工場 他	畑づくり 歓迎式 1番茶の茶摘み など
2	5月（下旬）	町内畑・山 他	畑管理 夏野菜種まき 新緑ハイキング など
3	6月（下旬）	町内畑 他	畑管理 染物体験 など
4	7月（下旬）	町内畑・大井川 他	畑管理 野菜収穫 温泉入浴 カヌー体験 など
5	8月（下旬）	町内畑 他	畑管理 野菜収穫 収穫野菜を使った料理作り など
6	9月（下旬）	町内畑 他	畑管理 野菜収穫 お茶を使った料理 など
7	10月（中旬）	町内畑 他	畑管理 野菜収穫 手揉み茶・釜炒り茶体験 など
8	11月（中旬）	町内畑・山 他	畑管理 野菜収穫 紅葉ハイキング など
9	12月（下旬）	町内畑 他	畑管理 闘茶会 蕎麦打ち など
10	2月（下旬）	町内畑・役場 他	開講式 畑整理 手づくりパンに挑戦 など

※ 畑の場所は、川根本町地名の「農林業センター」です。

※ 原則として、毎回土曜日の午後・日曜の午前中の事業実施となります。

- 参加申し込み・お問い合わせ先：申し込み・お問い合わせにつきましては、お電話にてお願いいたします。（住所とお名前をお聞きします。直接、役場にお越しいただいても構いません。）

川根本町役場 企画環境課 まちづくり係 電話 56-2221（FAX 56-2235）
E-mail kikaku-kankyou@town.kawanehon.shizuoka.jp

図 12：「援農サポーター」募集要項

2. 長崎県「ながさきめぐりあい事業」

(1) 事業の概要・現状

長崎県における「ながさきめぐりあい事業」は、長崎県こども政策局と長崎県青年団連合会による協働事業形式で、2006年10月から実施されている。「ながさきめぐりあい」事務局は、主に①結婚を応援する企業・店舗・NPOの募集、②独身男女がめぐりあうためのイベントの企画・調整、③イベント等の情報提供および参加促進、④若者同士の交流・めぐりあいのためのイベントの実施・検証、⑤広報・啓蒙活動という5点をおこなっている。

ただし、「提供するのは『出会いの場』のみで、事後のフォロー・サポートはしない（結婚相談所との競合および民業圧迫をさげ、補完または代替の関係を目指す。）」としている。形態としては、会員と協賛団体の橋渡しをすることで、出会いの場を提供する「出会いサポート」と同様であると言える。

2007年12月現在でイベント実施回数122回、参加者数2203名、カップル成立数134組、成婚数2組にのぼっている。

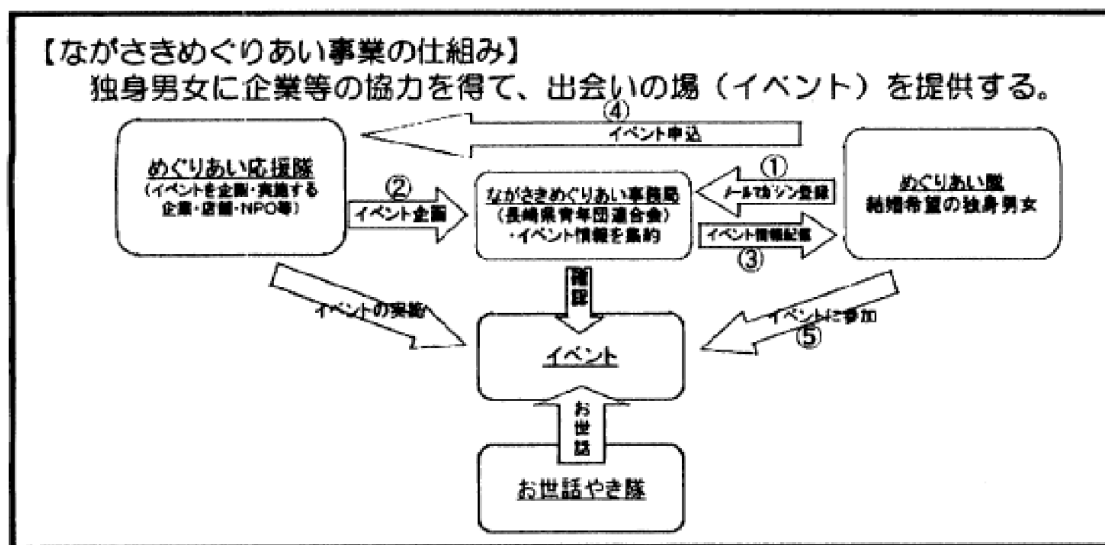


図 13 : 「ながさきめぐりあい事業」の仕組み (日本青年館結婚相談所 2008:32)

(2) 事業の特徴

「ながさきめぐりあい事業」の特徴の1つは、長崎県と青年団連合会の協働であり、青年団が事務局を担っているという点である。そしてこの協働により、当事者の立場でイベント運営がなされているということが、非常に重要になっている。

長崎県青年団連合会は、青年層の団体であり結婚適齢期層とほぼ一致することから、「結婚をめぐる一番の当事者」という認識に立ち、次のように述べている。

私たちは、結婚をするかもしれないし、結婚をしたいかもしれない。しかし、結婚させられるものではない。こういった複雑で不安な気持ちをイベント参加者や参加を逡巡している独身者と共有できることは、私たちが当事者であるからである。

事務局には、日々独身者とその家族からのメールや電話による問い合わせが届く。必死の思いでイベントに申し込みをしたものの、当日になって会場に足を運ぶのをためらい、事務局に相談する電話であったり、独身者の家族からの電話もたくさん届くようになっていく。それだけではなく、「こんなイベントがあったらいいな」「この地域でのイベントがいいな」「こんな会場だったらいいな」といったリクエストもたくさん届く。

青年団であるなしを問わず、長崎の中に仲間がたくさんいることを実感している。いずれ親になっていく仲間とともに、親になるために・親になるまでの成長と経験をこの事業で行っていきたい。(日本青年館結婚相談所 2008:34)

3. 岡山県「1000人が出会う Hey! Say! Cafe!」

(1) 事業の概要・現状

岡山県では、岡山商工会議所青年部の主催で男女の出会いを提供するパーティ「Hey! Say! Cafe!」が実施されている。2006年に第一回、2007年には第二回のイベントが開かれており、第一回は約850名の参加者が集まった。

対象者は、20歳以上50歳までの独身男女だが、原則として岡山商工会議所青年部のメンバーによる紹介が必要になる。ただし、紹介者がいない場合には、事前に実施される説明申込会に参加することが条件となる。

事前の説明申込会では、イベントの説明および参加予定者の身分証明の確認を経て、参加を申し込むことになる。2007年度では、イベント前に6回にわたる説明会が実施されており、参加予定者はそのいずれかに出席することになる。この申込会は、商工会議所でおこなわれており、身分証明書を確認するという形での面接も兼ねているため、不純な動機での参加を退けることにつながっているという。

イベントは、参加者に異性と積極的に会話をする気持ちを持ってもらうということ、若者の会話力を育むということに重点が置かれている。カフェの店員に扮したスタッフは、「参加者をおもてなしする」「参加者を孤独にさせない」「元気に活動する」といったことが行動基準とされており、男女が話しやすい雰囲気を作り、出会いの手伝いをする。

ただし、フリータイムが中心となっているものの、男性参加者に対するマナー教室や、落語、ゲームなども織り込まれている。以下に示した図は、「Hey! Say! Cafe!」のスケジュールを示したものである。

イベント終了後はいかなるフォローもおこなわず、また参加者の追跡調査などもおこなっていない。その背景には、カップル数や成婚数などを追求しないことが、遠回りでも成功に近づく道であるとの考え方がある(日本青年館結婚相談所 2008:57)。

Hey!Say!Cafe!当日のスケジュール

- 11:00 各担当スタッフごとに集合、ミーティング 昼食
- 12:00 全スタッフ集合、ミーティング
- 13:00 受付開始 男性は随時会場へ入場、女性は13:55まで待機
- 13:35 男性参加者の為の「マナー教室」
- 14:00 女性参加者の入場 (男性参加者は、会場内で拍手でお迎え)
- 14:15 Hey!Say!Cafe!店長(会長)挨拶
- 14:20 よしもと 結婚創作落語
- 14:50 フリータイム&色紙ゲーム
- 16:00 色紙ゲームの終了、表彰
- 16:15 抽選の発表(参加者のチケット番号による抽選)
- 16:45 フリートークの終了宣言
- 16:55 閉店の挨拶(担当委員長)
- 17:00 Hey!Say!Cafe! 終了・退場の誘導・景品の受け渡し
- 17:30 会場清掃
- 18:00 スタッフ集合/記念撮影終了後すべてのプログラム終了後

図 14 : 「Hey! Say! Cafe !」 スケジュール (岡山商工会議所青年部より提供)

(2) 事業の特徴

「1000人が出会うHey! Say! Cafe !」については、特に次の2点の特徴を挙げることが出来るだろう。まず、他に類を見ないイベントの規模の大きさが1点目である。これだけの参加者を集めるイベントであるにもかかわらず、募集期間の半分で女性は定員になり、その後男性についても定員を満すまで申し込みがあるという。

2点目は、いわゆる「カップリングパーティ」とは異なり、「このとりの会」や「出会いサポート」で見られるカップル投票がおこなわれないということである。プレイベントとして実施した100人のパーティの際に、男性はカップル投票の用紙を出すものの、女性は用紙自体を出さない傾向があったということが背景にあるという。

また、運営上の問題としても、参加者が850名にもものぼるイベントで、カップル投票をおこなったとしても、誰が誰とカップルになっているのかを突き合わせていく作業は、非常に困難なものになるだろう。

第2節 結婚支援事業の今後に向けての提言

本節では、第4章で挙げた結婚支援事業が抱える課題4点に対応する形で、これからの結婚支援事業に向けて提言をおこなう。

結婚支援事業の発展可能性は、次の2点にかかっているとと言えるだろう。第一は、参加しやすい条件や状況を整え、会員数・参加者数を増やすことが出来るかどうかという点である。そして第二は、実施された交流会において、カップルの成立数を増やすこと、ひいては事業を通じた成婚数を増加させることが可能かどうかという点である。

前者に対しては、①「結婚支援を主眼としない」結婚支援事業を提供していくこと、②会員が安心して参加出来る状況を整えることの2つが重要である。

また後者について必要と考えられるのは、次の2つである。③農山漁村部の男性が得意分野を生かせるイベントの実施、および④運営面におけるより一層の工夫を重ねていくことである。以下では、上記4点について詳細を述べていく。

1. 「結婚支援を主眼としない」結婚支援

すでに見たように、いずれの事業においても入会・参加に対して抵抗感が持たれていた。その背景には、結婚支援事業を利用することは、結婚というプライベートな領域に他者の介入を受け入れることであって「自然ではない」という意識があった。あるいは、自分では相手を探せない人たちが利用する「最後の手段」といったネガティブなイメージがあった。

それでは、そういった抵抗感を低減するためには、どのような対応が必要になるのだろうか。この点について、協賛団体として「出会いサポート」に関わるDさんがヒントとなることを述べている。

Dさん：出会いに欠かせないキーワードが、やっぱり「運命」やと思います。パーティのなかでね、一番結婚されるパーティはどんなパーティかというと、エグゼクティブなパーティとか、真剣な出会いのマリッジプランではないんです。

むしろ、カジュアルなパーティです。何でかって言うとね、カジュアルなパーティは、女の子は冷やかして来る子もいるし、男の子は友達に無理やり引っ張られて、嫌々連れてこられる人とかもおるんですよ。そんななかでパツといい人に出会うと、出会ったことにやっぱり運命を感じるんですね。

つまり、出会いや結婚を支援するものであるにもかかわらず、その点を表に出しすぎることは、逆効果になる可能性があると言える。むしろ、出会いや結婚といったことが背景となっているようなイベントの方が望ましいということになる。静岡県榛原郡川根本町で実施されている「ちゃっきり娘養成講座」は、まさにそういった事業であると言える。

すでに述べたように、この事業は「縁結び」の側面を表に出している訳ではない。しかし、独身女性と限定して募集することで、異性との出会いや交際、結婚といったものも視野に入れながら参加する人が多くなる。

ただし、決してそのみが目的ではなく、年間10回開催される農業体験に参加する

なかで、何度も顔を合わせる内に次第に親しくなっていくのである。つまり、「自然な形」の出会いとして受け止めやすい条件が整っていると言える。

よく知られているように、かつて主流であった見合い結婚は徐々にその割合が減少し、1960年代の後半に恋愛結婚が見合いを上回るようになった。以降も恋愛結婚の割合は増加の一途をたどり、現在では約90%が恋愛結婚となっている。このような状況において、当事者たちにとっては、他者の関与や介入がないと感じられる結婚が「自然なもの」として位置づけられているのである。

したがって、結婚を支援するためには、結婚それ自体が目的であることや、他者によってアレンジされている部分を前面に出すよりは、むしろ「自然な出会い」と認識されるような、サークル的な場を提供することが重要になるだろう。

2. 信頼性・安心感の確保

こういった事業を実施していく上で、信頼性や安心感を確保する必要があることは言うまでもない。ただし、ここで興味深い点は、信頼性や安心感の源泉は単一ではなく、公的な結婚支援と民間のそれとでは、異なった形で安心感が供給されているということである。

たとえば、「このとりの会」および「出会いサポート」に参加している人から、民間の結婚支援には参加しないという声が聞かれた。その背景には、「県がやっているから安心」という強い意識があった。静岡県榛原郡川根本町、長崎県、岡山県の事例を見てきたが、それらの参加者も行政がかかわっているという点に信頼感を持っている可能性が考えられる。

一方、「オーネット」会員のiさんが、「高い方が安全だと分かった」と述べていたように、相応の費用がかかることで信頼感を持てるという場合もあるようだ。費用がかかる理由としては、「オーネット」では、出会いのためのイベントのみではなく、データマッチングなどさまざまなサービスが提供されていることが挙げられる。

結婚を支援するという点では、公的なものであれ、民間であれ、目的とするところは同じである。しかし、利用者によって信頼感や安心感の背景として求める要素が異なっているのである。つまり、この求められる要素が異なっているために、両者はある程度の分業が可能であると言えよう。

また「オーネット」では、入会に際して独身証明や最終学歴の証明、勤務先発行の身分証明書もしくは健康保険証といった審査書類の提出が必要となっており、「このとりの会」や「出会いサポート」と比較して、そういった面での安全性はより高くなっていた。

すでに述べたように、「出会いサポート」会員のeさんは、入会に際して免許証を提示したのみであったため、勤務先などウソをつくことが出来るのではないかと不安を持っていた。実際問題として、独身証明等が不要という状況では、既婚者が独身であると偽って入会することも不可能ではない。

したがって、信頼性をより高めるために必要なこととしては、入会審査を厳密化する

ということが挙げられる⁵。また、同時に民間の結婚支援事業にとっては県などとコラボレートすることで、信頼性・安心感を高めることが出来るだろう。

信頼性・安心感という観点で、より重要な問題としては、会員同士のトラブル、特に女性会員に対する迷惑行為が挙げられる。ストーカー等が社会問題化するなか、こういった点についての配慮が重要になることは言うまでもない。

また、「出会いサポート」で知り合った後、交際してきたにもかかわらず、突如相手の男性からの連絡が途絶えたという声も聞かれた。その女性は、「出会いサポート」で知り合った相手だからこそ、別れるにしてもその旨きちんと話し合うなど、常識的で誠意のある人だと思っていたという。そして、そういうタイプの人は除名しなければ、他の女性に対しても同じ被害が心配されると考えている。

青少年本部では、イベントの参加およびその後の交際について、次のように述べている。

イベントへの参加は社会人として自覚と節度を持った行動をお願いします。又イベント参加中あるいは参加後の情報交換・おつきあいについては、各自のご判断・責任においてお願いします。(兵庫県青少年本部内ひょうご出会いサポートセンター 2008)

大人同士の出会い、交際であるため、自己責任を求めることは当然なのかも知れない。不用意に連絡先を教えないなど、会員が注意すべき点は少なくないだろう。しかし、兵庫県が実施しているという点で、多くの人が安心して参加している以上、ある程度の対策を考える必要もあるのではないだろうか。

たとえば、先に述べた入会審査の厳密化に加えて、発生した迷惑行為についての情報を積極的に収集するとともに、それらを会員に周知することや、場合によっては問題を起こした会員の除名などが考えられる。

交流会やその後の交際で迷惑行為があった場合、その情報が共有・周知され、対策がとられるようなシステムを確立させることは、それ自体が問題を減少させることにつながる。また、それとともに、参加者の信頼感・安全性が高まり、将来の参加者を増やすことにもなるだろう。

3. 農山漁村部の男性にとって得意分野をいかせるイベント

3点目の課題としては、こういった事業への参加およびその後の交際について、男性と女性で温度差等があるということがあった。また、事業者側に対する聞き取り調査では、いずれの事業においても、女性に比べて男性はファッションやコミュニケーション能力のレベルが低いといった声も聞かれた。

そういった課題を解消する方策として、たとえば「オーネット」で実施されていると

⁵ ただし、協賛団体のDさんによると、入会審査が厳しくなると、女性の会員は増えるが、男性は減るという。この点に関しては、安全性と会員数の確保という両者のバランスを検討すること、もしくは「特定の企業の人が集まるイベント」や「勤務先まで証明出来ている会員」といった形で、多様な事業形態・会員形態を展開する必要があるだろう。

いう「出来る男のためのセミナー」などを開催することも1つである。実際に「このとりの会」でも午前中に男性に対するセミナーを実施して、午後から交流会を開いたこともあったという。

また、以前は「このとりの会」のスタッフをつとめ、現在「出会いサポート」に関わっている F さんは、当時は紙ベースで発行されていた「このとりレター」という会報で、男性に対してお勧めのファッションの紹介などをしていたという。その甲斐あってか、現在では参加男性たちがずいぶん変わってきたと、F さんは感じている。

たとえば、ホテルで実施されるクリスマスの交流会に、ジャージで参加することは望ましくないといったことは、そういった場に慣れていない、もしくは予備知識が不足しているだけのことである。したがって、これらについてはセミナーや会報誌上でのアドバイスである程度は対応が可能だろう。

ただし、より大きな問題としては、「このとりの会」が、2008年4月以降は行財政改革による事業の見直しによって、「出会いサポート」と一体化運営されるという点が挙げられる。たとえば F さんは、両事業が一緒になった場合、「このとりの会」会員の男性にとって「絶対不利なことはわかっている」と述べる。

また、「このとりの会」スタッフの C さんは、一体化運営となった際は交流会の開催場所が重要であると考え、次のように述べている。「ずっと神戸でやるだけだったら、やっぱり郡部の男性とかにはちょっとなかなか不利な条件」となるため、「地域での取り組みをきっちり定着させていかないと」いけないという。

こういった地域での交流会を定着させていくという方向性はきわめて重要であると考えられる。聞き取り調査において、同じ男性のなかでも、「出会いサポート」に比べ「このとりの会」の参加者はコミュニケーションを苦手とする人が多いという声が聞かれた。これは、「このとりの会」でのカップル成立数が低くなっていた背景の1つと考えられる。

そもそも、農山漁村部で生活している男性たちにとって、神戸市内など都市部で開催される交流会は、条件として不利であると言ってよい。また、都市部の男性に比べて、異性との出会いやコミュニケーションをとる機会自体が少ないため、「コミュニケーション・スキルを磨け」というアドバイスは、南国でスキーの練習に励めということに近い。

それでは、こういった課題に対してどのような方策が考えられるだろうか。「このとりの会」スタッフである B さんは、この点について次のように述べている。

たとえば、男性会員でも都市部での交流会に来ている時の雰囲気と、地元の交流会に参加されている時の雰囲気と両方見ることがたまにあるんです。

やっぱり表情が全然違うんですね。地元に行ったら、こんな笑顔で笑ってると思うことがあるので、やっぱり地元の方がいいのかなと思う。

同じ男性でも、神戸で見ると地元で見るとでは、全然雰囲気が違いますからね。地域での開催という意味では、まだまだ可能性があると思っています。

つまり、農山漁村部の男性たちが暮らす地域での開催に意味があると言えよう。この点については、静岡県榛原郡川根本町で実施されている「ちゃつきり娘養成講座」から得られる示唆は小さくない。現状では、農山漁村部の男性たちのなかには、コミュニケーション・スキルが不足している人が多いと受け止められている。しかし、自分たちが生活している地域で、しかも日頃から従事している仕事などに女性と一緒に参加するとすれば、状況が変わってくることは十分に考えられる。

少なくとも、コミュニケーションがスムーズになったり、自然な形で友人関係や恋愛関係が生まれやすくなる可能性は高まるのではないだろうか。実際に、「ちゃつきり娘養成講座」の参加女性から、「気さくで話しやすかった」「まさに自然の中での体験で、援農隊の方々にもやさしくご指導いただいたので、安心して参加できました」といった感想が寄せられている（日本青年館結婚相談所 2008）。したがって、農山漁村部の男性にとって得意分野を生かせるイベントとすることが重要である。

4. 運営上の工夫の必要性

参加者に対する聞き取り調査および質問紙調査において、実際の交流会の運営についてもさまざまな要望があった。具体的には、時間配分の再検討や、年齢幅を小さくすることなどが求められる。ただし、特に会費を抑えたり、年齢幅を小さくする（＝開催数を増やす）ためには、こういった事業に対する予算分配が必要になるだろう。

また、交流会の多様性を確保するなど工夫を凝らしていく上で、「ながさきめぐりあい事業」に見られたような、事業者側が当事者意識を持つということも重要になるだろう。当事者として考えていく上で、事業に何が不足しており、何が必要かを検討することは、事業をより良い方向にシフトさせていくことにつながるだろう。

現在まで進行してきた未婚化・晩婚化の背景には「男女交際が下手になった」「わがままな若者が増えた」とする指摘がある。しかし山田昌弘が指摘しているように、これらは事実とは異なっている（山田 1996）。

それにもかかわらず、もしも事業者側が上記のような若年者、特に独身者に対するマイナスイメージを保持していれば、こういった結婚支援事業に対する抵抗感を強めることになりかねない。

したがって「ながさきめぐりあい事業」における「これから結婚をしていく当事者意識」を持つとともに、「同じ仲間を『結婚させる』のではなく、『仕事』『結婚』『出産』『子育て』というライフステージ上の課題を皆で共有し、ともに成長を目指していく」という立場からの結婚支援は、交流会への参加に対する抵抗感を薄める意味でも重要であろう。

おわりに

以上、本調査研究では質問紙調査および聞き取り調査をもちいて、結婚支援事業に参加する人たちの意識や、事業が持つ課題を明らかにしてきた。また、そういった課題に対して、考えられるいくつかの方策を提言した。

それでは最後にこういった事業を、意義あるものとして位置づけることが出来るのかどうか、検討しておきたい。

すでに述べたように、「このとりの会」は93組、「出会いサポート」は5組の成婚カップルを生み出している。特に「このとりの会」では、成婚数を事業の成否を示す指標としている。しかし、こういった事業におけるカップルの成立数や成婚数を、一般的なそれと比較して、事業の成否を検討することは非常に難しい。

とはいえ、いずれの事業においても、交流会の参加希望者数が定員を上回っていた。また、事業に対する満足な点や不満、要望についての自由記述の内容を資料編として添付している。参加者から寄せられた「交流会などの回数を増やしていただけたら、嬉しいです」といったコメントを見る限りでは、事業のより一層の充実が望まれていることがうかがえる。

質問紙調査での満足度を尋ねた項目では、「このとりの会」で66%、「出会いサポート」では62%が、肯定的に回答していた。これらのことは、少なくともすでに参加したことのある人にとって、こういった事業が必要とされていることを端的に示していると言えよう。

また、参加したことがない人、あるいは現在参加する必要のない人のなかにも、時間経過とともに、結婚支援事業への参加を希望する人があらわれる可能性がある。聞き取り調査において、20代半ばの時は参加しようと思わなかったが、後半になって参加し始めたという声が聞かれた。あるいは、失恋がきっかけで「オーネット」に入会したという事例も見られた。つまり、潜在的な需要が存在していると言えるだろう。

これらのことを合わせて考えた時、こういった事業には少なくとも一定の意義があり、今後発展していく余地も残されていると言えるだろう。また、両事業に長年携わっているFさんは、成婚を目的とする事業ではあるものの、その意義や成果は成婚数のみではないと考えている。最後に、そのFさんの語りを紹介して、本報告書の締めくくりとしたい。

Fさん：たとえば、「サポートセンター」の場合はまだ、正式に御結婚の報告をいただいたのは、2組じゃないですか。「このとりの会」の方は92、3組ぐらいになっているけども、7、8年かかって、90何組が成功なんかどちらか、どうなんかなっていう気はします。

でも、「このとりの会」では御結婚なさらなかったけども、地域に住んでる方と結婚するから退会しますという方がいらっしゃったんですね。良かったですねって言ったら、その男性は会員さんではなかったけども、やっぱりその会に行ったことで、お話ししたりする、おつき合いすることの、スキルアップにはなったとおっしゃったんですねよ。

だから、結婚できたんだと思いますっていうふうにおっしゃって。「このとりの会」ではめぐり会わなかったけども、交流会に参加したことで、結婚出来たんだと思いますって言ってくださる方が、結構多かったんですよ。

そういうのは、やっぱりうれしいですね。要するに結婚すればいいのであって、会員同士じゃなくても全然構わないと思うんですよ。だから、そういう意味では、すごくいい縁があったんじゃないかなっていうふうに。

おつき合いをしたことがないから、おつき合いとかお話するのをどういうふうにしたらいいんかっていうのが、まず、おわかりにならない方がすごく多かったと思いますね。男性の方は特に。

それが何回か交流会に出て、例えば1対1で何分、2分間でも3分間でもお話するとか、フリートークの時に声をかけて、お話ししてくださいというようなことを経験なさってて、お声かけたりすることが抵抗感がなくなってきたんだと思うんですよ。それで、例えば、異性とのお話とかがスムーズになってきたんじゃないかな。

だから、それはもう、それは一つの成果だと思うんですよ。

◆謝辞

本報告書の作成にあたり、多くの方にご協力いただきました。答えにくい質問もあったことと思いますが、長時間にわたり話を聞かせて下さったり、質問紙調査に答えて下さったりしたみなさまに、心から感謝の意を表します。

また、株式会社オーネットの篠塚涼子氏およびオーネット神戸支社のみなさまには大変お世話になりました。お忙しい時期であったにもかかわらず、「オーネット」のイベントの非参与観察から会員・関係者のみなさまへのインタビュー調査まで、さまざまな点でご協力いただきました。

一人一人お名前を挙げることは差し控えますが、兵庫県青少年本部および関係者のみなさまにも、数々のご協力をいただきました。記してお礼を申し上げます。

◆参考・引用文献

兵庫県生活文化部こうのとりの会事務局，1999『こうのとりのLetter』。

(財)兵庫県青少年本部内「こうのとりの会」事務局，
<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/konotori/index.html>。2008年3月1日閲覧。

(財)兵庫県青少年本部内ひょうご出会いサポートセンター，2008年2月1日閲覧。
<http://www.seishonen.or.jp/deai/deai.html>。

岩澤美帆，2005，「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」『日本労働研究雑誌』535: 16-28。

経済産業省商務情報政策局サービス産業課，2006，『少子化時代の結婚関連産業の在り方に関する調査研究報告書』。

(財)日本青年館結婚相談所，2008「どうなる結婚の未来～若者主催の出会い事業の意味と効果～」(2008全国結婚研究会議配付資料)。

(財)21世紀ヒューマンケア研究機構家庭問題研究所，2005，『都市と農山漁村地域の青年交流のあり方に関する調査研究報告書』。

岡山商工会議所青年部，2007，1000人が出会う!!Hey!Say!Cafe!，
<http://www.okyeg.jp/heysaycafe/pc/>。2008年3月1日閲覧。

大瀧友織，2003，「夫に対する役割期待の変化——妻からの不満をとおして」家族問題研究会『家族研究年報』28号: 51-62。

山田昌弘，1996，『結婚の社会学——未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善。

(財)子ども未来財団，2005，『地方公共団体等における結婚支援に関する調査研究(最終報告書)』。

資料編

- 単純集計結果
- 質問紙調査の自由記述
- 調査票

◆単純集計結果

q1参加種類

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	このとりの会	78	26.5	29.0
	出会いサポート	165	56.1	61.3
	どちらにも参加 したことがある	26	8.8	9.7
	合計	269	91.5	100.0
欠損値	システム欠損値	25	8.5	
合計		294	100.0	

q2a結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	47	16.0	16.4
	ややそう思う	135	45.9	47.0
	あまりそう思わない	86	29.3	30.0
	そう思わない	19	6.5	6.6
	合計	287	97.6	100.0
欠損値	システム欠損値	7	2.4	
合計		294	100.0	

q2b結婚のいい点は、経済的に安定することだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	21	7.1	7.3
	ややそう思う	101	34.4	35.1
	あまりそう思わない	136	46.3	47.2
	そう思わない	30	10.2	10.4
	合計	288	98.0	100.0
欠損値	システム欠損値	6	2.0	
合計		294	100.0	

q2c今日、人々が結婚するのは、主に子どもをつくるためだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	4	1.4	1.4
	ややそう思う	74	25.2	25.9
	あまりそう思わない	154	52.4	53.8
	そう思わない	54	18.4	18.9
	合計	286	97.3	100.0
欠損値	システム欠損値	8	2.7	
合計		294	100.0	

q2dどんな悪い結婚でも、結婚しないよりははまだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	3	1.0	1.0	1.0
	ややそう思う	18	6.1	6.3	7.3
	あまりそう思わない	96	32.7	33.6	40.9
	そう思わない	169	57.5	59.1	100.0
	合計	286	97.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	2.7		
合計		294	100.0		

q2e子どもが欲しい人は結婚するべきだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	101	34.4	35.7	35.7
	ややそう思う	106	36.1	37.5	73.1
	あまりそう思わない	48	16.3	17.0	90.1
	そう思わない	28	9.5	9.9	100.0
	合計	283	96.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	11	3.7		
合計		294	100.0		

q2fひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じように、子どもを育てることができる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	56	19.0	19.6	19.6
	ややそう思う	108	36.7	37.9	57.5
	あまりそう思わない	91	31.0	31.9	89.5
	そう思わない	30	10.2	10.5	100.0
	合計	285	96.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	3.1		
合計		294	100.0		

q2g結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	57	19.4	19.7	19.7
	ややそう思う	126	42.9	43.4	63.1
	あまりそう思わない	85	28.9	29.3	92.4
	そう思わない	22	7.5	7.6	100.0
	合計	290	98.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	1.4		
合計		294	100.0		

q2h結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居してみるのがよい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	33	11.2	11.5	11.5
	ややそう思う	138	46.9	47.9	59.4
	あまりそう思わない	91	31.0	31.6	91.0
	そう思わない	26	8.8	9.0	100.0
	合計	288	98.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	2.0		
合計		294	100.0		

q2i結婚生活がうまくいかなかったら、たいていは離婚するのが一番よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	16	5.4	5.5	5.5
	ややそう思う	98	33.3	33.9	39.4
	あまりそう思わない	141	48.0	48.8	88.2
	そう思わない	34	11.6	11.8	100.0
	合計	289	98.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	1.7		
合計		294	100.0		

q2j子どものいない人生はむなしなものだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	43	14.6	15.0	15.0
	ややそう思う	97	33.0	33.8	48.8
	あまりそう思わない	103	35.0	35.9	84.7
	そう思わない	44	15.0	15.3	100.0
	合計	287	97.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	2.4		
合計		294	100.0		

q2k子どもがいれば、夫婦の仲がたとえ悪くなくても、別れるべきではない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	42	14.3	14.7	14.7
	ややそう思う	122	41.5	42.7	57.3
	あまりそう思わない	91	31.0	31.8	89.2
	そう思わない	31	10.5	10.8	100.0
	合計	286	97.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	2.7		
合計		294	100.0		

q2結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	13	4.4	4.5	4.5
	ややそう思う	73	24.8	25.3	29.9
	あまりそう思わない	137	46.6	47.6	77.4
	そう思わない	65	22.1	22.6	100.0
	合計	288	98.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	2.0		
合計		294	100.0		

q2m恋愛と結婚は別である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	55	18.7	19.2	19.2
	ややそう思う	123	41.8	43.0	62.2
	あまりそう思わない	88	29.9	30.8	93.0
	そう思わない	20	6.8	7.0	100.0
	合計	286	97.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	2.7		
合計		294	100.0		

q3k_yこうのとりの会員期間：年

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	4	1.4	6.8	6.8
	1	12	4.1	20.3	27.1
	2	10	3.4	16.9	44.1
	3	8	2.7	13.6	57.6
	4	7	2.4	11.9	69.5
	5	6	2.0	10.2	79.7
	6	5	1.7	8.5	88.1
	7	2	.7	3.4	91.5
	8	4	1.4	6.8	98.3
	9	1	.3	1.7	100.0
	合計	59	20.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	235	79.9		
合計		294	100.0		

q3k_mこうのとり会員期間：月

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	4	1.4	8.7	8.7
	1	13	4.4	28.3	37.0
	2	5	1.7	10.9	47.8
	3	5	1.7	10.9	58.7
	4	4	1.4	8.7	67.4
	5	7	2.4	15.2	82.6
	6	4	1.4	8.7	91.3
	8	2	.7	4.3	95.7
	10	1	.3	2.2	97.8
	11	1	.3	2.2	100.0
		合計	46	15.6	100.0
欠損値	システム欠損値	248	84.4		
合計		294	100.0		

q3d_y出会いサポ会員期間：年

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	8	2.7	32.0	32.0
	1	13	4.4	52.0	84.0
	2	4	1.4	16.0	100.0
		合計	25	8.5	100.0
欠損値	システム欠損値	269	91.5		
合計		294	100.0		

q3d_m出会いサポ会員期間：月

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	5	1.7	3.0	3.0
	1	52	17.7	31.0	33.9
	2	28	9.5	16.7	50.6
	3	28	9.5	16.7	67.3
	4	8	2.7	4.8	72.0
	5	7	2.4	4.2	76.2
	6	23	7.8	13.7	89.9
	7	2	.7	1.2	91.1
	8	5	1.7	3.0	94.0
	9	3	1.0	1.8	95.8
	10	6	2.0	3.6	99.4
	11	1	.3	.6	100.0
	合計	168	57.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	126	42.9		
合計		294	100.0		

q4aこうのとりに参加回数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	23	7.8	23.2	23.2
	1	36	12.2	36.4	59.6
	2	17	5.8	17.2	76.8
	3	10	3.4	10.1	86.9
	4	3	1.0	3.0	89.9
	5	1	.3	1.0	90.9
	5	5	1.7	5.1	96.0
	6	2	.7	2.0	98.0
	7	2	.7	2.0	100.0
	合計	99	33.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	195	66.3		
合計		294	100.0		

q4b出会いサポ参加回数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	27	9.2	14.1	14.1
	1	91	31.0	47.6	61.8
	2	39	13.3	20.4	82.2
	3	15	5.1	7.9	90.1
	4	5	1.7	2.6	92.7
	5	6	2.0	3.1	95.8
	6	3	1.0	1.6	97.4
	7	2	.7	1.0	98.4
	8	1	.3	.5	99.0
	10	2	.7	1.0	100.0
	合計	191	65.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	103	35.0		
合計		294	100.0		

q4c民間結婚支援事業参加回数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	35	11.9	44.9	44.9
	1	22	7.5	28.2	73.1
	2	8	2.7	10.3	83.3
	3	3	1.0	3.8	87.2
	5	3	1.0	3.8	91.0
	10	6	2.0	7.7	98.7
	20	1	.3	1.3	100.0
	合計	78	26.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	216	73.5		
合計		294	100.0		

q5aこうのとり満足度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足	16	5.4	16.0	16.0
	やや満足	50	17.0	50.0	66.0
	やや不満	29	9.9	29.0	95.0
	不満	5	1.7	5.0	100.0
	合計	100	34.0	100.0	
欠損 値	参加していない	59	20.1		
	システム欠損値	135	45.9		
	合計	194	66.0		
合計	294	100.0			

q5b出会いサポ満足度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足	20	6.8	11.1	11.1
	やや満足	92	31.3	51.1	62.2
	やや不満	61	20.7	33.9	96.1
	不満	7	2.4	3.9	100.0
	合計	180	61.2	100.0	
欠損 値	参加していない	41	13.9		
	システム欠損値	73	24.8		
	合計	114	38.8		
合計	294	100.0			

q6age年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	21	1	.3	.4	.4
	23	2	.7	.7	1.1
	24	1	.3	.4	1.4
	25	2	.7	.7	2.1
	26	3	1.0	1.1	3.2
	27	10	3.4	3.5	6.7
	28	14	4.8	4.9	11.6
	29	12	4.1	4.2	15.8
	30	21	7.1	7.4	23.2
	31	14	4.8	4.9	28.1
	32	29	9.9	10.2	38.2
	33	29	9.9	10.2	48.4
	34	15	5.1	5.3	53.7
	35	17	5.8	6.0	59.6
	36	18	6.1	6.3	66.0
	37	17	5.8	6.0	71.9
	38	22	7.5	7.7	79.6
	39	10	3.4	3.5	83.2
	40	13	4.4	4.6	87.7
	41	5	1.7	1.8	89.5
	42	8	2.7	2.8	92.3
	43	7	2.4	2.5	94.7
	44	5	1.7	1.8	96.5
	45	1	.3	.4	96.8
	46	3	1.0	1.1	97.9
	47	3	1.0	1.1	98.9
	49	3	1.0	1.1	100.0
	合計	285	96.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	3.1		
合計		294	100.0		

q6sex性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	137	46.6	47.2	47.2
	女性	153	52.0	52.8	100.0
	合計	290	98.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	1.4		
合計		294	100.0		

q7学歴

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	中学校	1	.3	.3	.3
	高等学校	63	21.4	21.8	22.1
	短大・高専・専門学校	111	37.8	38.4	60.6
	大学(4年制)	110	37.4	38.1	98.6
	大学院	4	1.4	1.4	100.0
	合計	289	98.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	1.7		
合計		294	100.0		

q8aきょうだい数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	30	10.2	10.5	10.5
	2	160	54.4	55.7	66.2
	3	87	29.6	30.3	96.5
	4	10	3.4	3.5	100.0
	合計	287	97.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	2.4		
合計		294	100.0		

q8b何番目か

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	158	53.7	57.9	57.9
	2	84	28.6	30.8	88.6
	3	29	9.9	10.6	99.3
	4	2	.7	.7	100.0
	合計	273	92.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	21	7.1		
合計		294	100.0		

q8c同性で何番目か

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	194	66.0	76.7	76.7
	2	49	16.7	19.4	96.0
	3	10	3.4	4.0	100.0
	合計	253	86.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	41	13.9		
合計		294	100.0		

q9同居人数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	75	25.5	26.6	26.6
	2	34	11.6	12.1	38.7
	3	96	32.7	34.0	72.7
	4	52	17.7	18.4	91.1
	5	15	5.1	5.3	96.5
	6	10	3.4	3.5	100.0
合計		282	95.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	12	4.1		
合計		294	100.0		

q10収入

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	200万円未満	40	13.6	14.5	14.5
	200～400万円未満	127	43.2	46.2	60.7
	400～600万円未満	89	30.3	32.4	93.1
	600～800万円未満	14	4.8	5.1	98.2
	800～1000万円	5	1.7	1.8	100.0
	合計	275	93.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	19	6.5		
合計		294	100.0		

◆質問紙調査の自由記述

①「このとりの会」参加者：男性

- ・ サポート、フォローアップをもう少し！
- ・ もう少しフリータイムの時間を増やして欲しいです。
- ・ 但馬での開催を今後ふやして下さい。
- ・ 年齢制限をもう少し上げてほしい。お願いします！
- ・ 終わったあとのサポートが無い
- ・ 前みたいにこのとりの会のイベントを封書で送ってきてほしい
- ・ 満足している点、出会いの場に参加できる。不満の点、毎月の会報が戸別配送の終了。
- ・ 交流会等で、アイスブレイク的なゲーム等をする際、ぜひ、私にさせてくれるとうれしいです。
- ・ 交流会などの回数を増やしていただけたらうれしいです。多少参加費が高くなっても問題ないです。
- ・ もう少しフリータイムを長くしてほしい。気にいっちゃったカードとかをつくってほしい。
- ・ やっぱり縁ってあると思います。その縁を結んで下さる、このとりの会には大変、感謝しております。
- ・ このとりの会…近場交流会少ない。
- ・ もっと回数を増やしてほしい
- ・ 神戸での会が集中しているような？
- ・ 出会いの場が少ない独身者が多いと思う。特に男性。もう少し大勢で、回数も増やして欲しい。後細かくゆうと年齢別、できれば男女の近距離の方がいいと思うので地域別（男女含めて）とかどうでしょうか？
- ・ 「要望として」このとりの会に参加して、3度ほど「ビビッとカード」でカップルになった事がありますがやはり私がバツイチという条件で長続きしません。最近では「出来ちゃった婚」「バツイチ」等貞操やまともな道德感が崩れてしまっていると思われていますが、真剣にやり直そうと考える者もいるとわかっていただきたいと思います。できれば再婚者の会とか理解しあえる者が集まれる会を作っていただきたいです。内容としては、借金や裁判中、犯罪歴の無い方で社会的に安全な方とか。もしくは、再婚者の集い等のイベント回数を増やしていただきたいです。
- ・ 満足してる点はまじめにみんな来るし、話が早くて、出会いの場を提供してくれるし、不満はない！場を提供してもらってるから。

- ・ 出会いサポートはパソコンを持っていない人は参加出来ない事がややこしい！

②「このとりの会」参加者：女性

- ・ プロフィールカードにタバコを吸う、吸わないの欄を今後も入れて下さい。
- ・ 案内文は少し早目に着くと安心できるかなと思います。とても親切な対応でお話をすると安心します。スタッフの方には感謝しています。
- ・ 参加人数が多い。
- ・ 昨年“しあわせの村”でのバーベキュー、とても楽しかったです。今年はなかったのでしょうか？ああいったカジュアルなふん囲気のもよおしをお願いしたいです。よろしくお願い致します。
- ・ スタッフの方がとても良い感じの方なので安心して参加できます。ありがとうございます。
- ・ もうすこし回数をふやしてほしい
- ・ 場所が遠かったり、へんぴだったりするので、加古川・高砂・姫路あたりでもやってほしい。
- ・ このとりの会の事務局が平日しかあいていないので、交流会の申込みがなかなかできない。（パソコン・F a xがないので）以前より交流会が少なくなったように思う。
- ・ やや不満な点は、年齢が離れている人のグループにいたりして話しが弾まなかったです。
- ・ 当日は気持ちが落ち着かないので、前もって参加者の情報がいただけたらと思います。

③「出会いサポート」参加者：男性

- ・ 男女各20名とかでなく、各5～10名等少人数であれば、もっとゆつくり奥深い内容も話せると思います。
- ・ 日曜以外の開催パーティは、それぞれ仕事があると思うので、19：30開催にしてはどうか？
- ・ 満足しております。今後ともパーティの企画を宜しくお願い致します。
- ・ 女性同士で仲よくなり男性を選ばない事
- ・ 不明な点ですが、出会いサポートでのイベントは100%正会員なのでしょうか？また、私は準会員なのですが、何か正会員に比べて、制限されていることとかありますか？
- ・ 料金が低い。
- ・ 会場の地図をもう少し分かりやすくお願いします。連絡はきちんとして下さい。メールが届かなかつたら早期に電話等お願いします。ホテルより居酒屋とかで。仕事

の疲れで当日は最悪でした。

- ・ 参加人数が少数だったので、ちゃんと、一人一人を認識して、話せた。多いと、終わりの頃には紹介もおざなりになりがちなので。
- ・ 初めて参加したので緊張しました。思っていたよりも動きが多かったのでとまどいました。
- ・ 1対1の対話の時間が短いと思う。
- ・ 1対1の対話時間が短すぎておちつけない。早すぎるのでおぼえていない。
- ・ 女性の参加年齢制限が高いものが多い。低いパーティを多く増やしてほしい。
- ・ より少人数の会（最大で10名程度）があれば、よりゆっくりお互いに話をでき、仲を深めやすくなると思うのですが…（今回の25名でも多いように思います）
- ・ もう少し時間があればいい
- ・ もう少し時間の工夫やドリンクなどセッティングして欲しい。自由時間がないため、何がなんだかかわからず終わった感じがしました。もう少し、色々な方とお話しがしたかったです。
- ・ 開催場所は、公民館など使用し参加料をもう少し安くするべきだ
- ・ もう少しあいてのフィーリングとか相性がわかるようにして欲しい。
- ・ 会社に対しては不満なし。ただ、女性が真剣に参加しているのか疑問に思う。今までの経験から「高い店へつれてって」「高価なもの欲しい」など、低レベルの女性が多いです。人柄と知性が高い女性は少ないですね。
- ・ もっと40才以上の出合のパーティーを増やして欲しい。
- ・ やり方が民間と比べて素人がやっている様な感じで、本当にマッチングさせて応援しようという気が感じられなかった。
- ・ シフト制で働いているので、月末にならないと休みの日が決定できず、直前に流れてくるパーティーのお知らせに、対応できない。もっと、先の予定まで（受付開始しなくても）把握することはできないか？
- ・ 実際の成婚数をHPにアップしてほしい。今日のイベント（12/2）は人数が多すぎる（Max 30人くらいが限度では）ゆっくり話せる時間、環境が必要では？

④「出会いサポート」参加者：女性

- ・ もう少し対象年齢を上げて欲しい。
- ・ 当日の連絡先があればうれしいです。場所が分からなくて迷ったので。ゆっくりと考える時間がない。
- ・ もう少し話しをできる時間が欲しかったです！！
- ・ 番号と人の一致ができません。手元にプロフィールが残ればいいのですが…（後に回収などにして。）
- ・ 店が狭かったので広くしてほしい。

- ・ もう少し年齢わくを細かくくぎってほしいです。
- ・ システム・流れなど前もって知りたかった。
- ・ もう少し行きやすい金額だとありがたいです
- ・ 各イベントの参加費がちょっと高い。3000円ぐらいなら、比較的参加しやすいです。
- ・ すごく空調が暑いです。初めにすごく話すので飲み物がほしかったです。
- ・ 一人一人の会話の時間が、もう少し長ければいいのになあ～と思いました。会話は、楽しかったです。暑かったです！
- ・ 人数が多く、立食だと話せない人が多い。
- ・ 年齢設定が私たちの年代は上すぎたり下すぎたりイベントしかなくて30代くらいの設定のものをつくってほしい。
- ・ 姫路でやってほしいです。
- ・ 会費をもう少し安くして欲しい…
- ・ 会費を安く！！
- ・ 職場にあるパソコンが個人ではないので、イベント案内が非常に開きにくい。大変だとは思いますが、個人的に案内を送ってきて頂ければありがたいと思います。
- ・ 1人の人と話す時間が長くて、多くの人と話すことができなかつたので、5分づつでも全員と話せるようにしてほしいです。話しかつた人と話せる機会がなかつたです。

⑤ 「このとりの会」および「出会いサポート」参加者：男性

- ・ 地方でも、出会いサポートのイベントをどんどん行われてはと思います。
- ・ 私は、公務員で33～35才くらいの公務員の相手の方を探していますが、なかなか該当者が見つからず、困っています。次回のパーティーに参加したいです。人数制限なしの参加があればいいですね。
- ・ 地方にも拡充を
- ・ おっさんにもっと機会をあたえろ。
- ・ 交際等関係なく文通とかメルトモとかいう様な項目を作つてはいかがでしょうか？
- ・ 中々学歴や仕事もしっかりしている女性に出会えない。仕事や学歴がしっかりした女性が会員にいないのではとさえ思う。年をとつた今になって見合いにしておけばと思うようになった。今は見合話もなくなった。あとくだらない演出（人形劇）とかで女性と話す時間がなくなるのでもうずっとフリータイムとか話しをできる時間にしてほしい。出会サポートのほうは、話をしいた人の所へ早い者勝ちで行かねばならないのが改善してほしい点

⑥ 「このとりの会」および「出会いサポート」参加者：女性

- 今日1日楽しい時間すごすことができありがとうございます。今回は人数が多かったのによくわかりませんでした。何回か席がえを指示してくれたのがほうりっぱなしでなくよかったです。
- 年齢幅を狭く設定した会も開いて欲しい。特に女性をフリーにすると、年齢の若い方が多いイベントに参加してしまった場合（当日、参加してみて）気おくれします。自己紹介は省いて1対1トークを長くして欲しい。皆が上手く話せず、自分の番が気になるので聞いてられない。
- なかなか当選しない。年齢層を30代枠として設けてほしい。
- カップルになった後も何かのサポートをしてほしい。
- 皆、真面目に前向きに結婚を考えておられる方ばかりだと思いますが、その真剣さゆえに、二股三股あるいは、もっとよいパートナーに出会えるのではないかという気持ちから、交際にまで至らないケースやうやむやになってしまう事があります。折角出会いの場ですので、お互い相性が合うパートナーに出会えたらいいなど、参加させて貰っていつも思うことです。
- 県からの委託を受けてこのような会がある事は素晴らしい事だと思う。結婚したくても社会人となれば仕事が忙しく実際に出会いの機会は極端に少なくなる。分野の違う人と話すと自分にはない良さ等刺激になり楽しめる交流や共同作業等（バーベキュー）遊園地に行こうのように企画があり大枠がありフリーもある中で自然にグループ交流から仲間や相手の事を知っていくきっかけ作りとなる。しかし現代女性が強くなり男性がおとなしい事も多く、互いにコミュニケーションが難しくなっているのではないのでしょうか。人数も30~40人と多いとまとめにくいですが、合う人が見つかるような気がします。積極性と消極性、あつかましさとひっこみ思案みんな幸せを望みつつも表現する事に困難となっているように思います。楽しい企画が沢山できる事、参加をどんどんしてみたいと期待していますのでこれからも爽やか交流をよろしくお願いします。できれば安くお手頃カジュアル気軽に爽やかなのが増えると嬉しいです。

⑦参加交流会不明

- 時間が短かすぎます。真剣にさがしているのに、時間が短いとじっくり話せません。遊びではないのですから、もう少し実のある進行を期待しています。この人なら、この人が合うかも…とかサポート、仲人も必要かもしれません。早くお願いします。年齢は待ってくれません。
- もっと20代同士の交流会をひらいて欲しい。
- 考えていたのとだいぶ違っていた。今後の参加は見合せたいと思いだしている。結婚の相手を見つけないと思っていたが、仕事の方がステップアップのチャンスをあたえてくれているので、仕事だけで充分かなと…。

- 私自身年が40才とたかいためやはり相手が引く事が多い、又いいなと思っても男性は年下の方を選びます。（実際には…）だから、年上の方が良いなど年齢での出会いを計画してほしい！
- 交流会の集合場所が遠い所（交通が不便）が多いのでそのへんをもう少しこうりよして頂けるとありがたいです。後、もう少し三宮での交流会を増やして頂けるとありがたいです。

◆調査票

【ご協力をお願い】

「こうのとりの会」および「出会いサポート」に参加される方を対象に、結婚についての調査を企画いたしました。こうした事業をより充実させていくためにも、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞ (財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 少子・家庭政策研究所

電話：078-262-5579 (直通) FAX：078-262-5593 (担当：大瀧)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 6 階

問 1 あなたは「こうのとりの会」および「出会いサポート」のどちらに参加されたことがありますか (今回のご参加を含めて)。あてはまる番号に○をつけて下さい (○は1つだけ)。

1. こうのとりの会 2. 出会いサポート 3. どちらにも参加したことがある

問 2 あなたは次のような意見に対して、どのようにお考えですか? あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

	そう思う	そう思う	やや	思わない	あまりそう	思わない	そう
a. 結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ	1	2	3	4			
b. 結婚のいい点は、経済的に安定することだ	1	2	3	4			
c. 今日、人々が結婚するのは、主に子どもをつくるためだ	1	2	3	4			
d. どんな悪い結婚でも、結婚しないよりはましだ	1	2	3	4			
e. 子どもが欲しい人は結婚するべきだ	1	2	3	4			
f. ひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じように、子どもを育てることができ	1	2	3	4			
g. 結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない	1	2	3	4			
h. 結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居してみるのがよい	1	2	3	4			
i. 結婚生活がうまくいかなかったら、たいていは離婚するのが一番よい	1	2	3	4			
j. 子どものいない人生はむなしなものだ	1	2	3	4			
k. 子どもがいれば、夫婦の仲がたとえ悪くなくても、別れるべきではない	1	2	3	4			
l. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4			
m. 恋愛と結婚は別である	1	2	3	4			

問 3 「こうのとりの会」もしくは「出会いサポート」の会員になられてから、どのくらいの期間が経ちますか (参加された事業についてのみ)。

この
とりの会

年 ヶ月

出会い
サポート

年 ヶ月

問 4 2007 年中に「こうのとりの会」および「出会いサポート」、または民間の結婚支援事業で、交流会・パーティ等には何度くらい参加されましたか (参加された事業についてのみ)。

この
とりの会

回

出会い
サポート

回

民間の結婚
支援事業

回

問5 あなたは「こうのとりの会」および「出会いサポート」について満足していますか。それとも不満ですか。それぞれ1つずつ選んで下さい（参加された事業についてのみ）。

a. こうのとりの会	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. 参加していない
b. 出会いサポート	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. 参加していない
c. 民間の結婚支援事業	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. 参加していない

問6 あなたの年齢と性別をお答え下さい。

歳

1. 男 2. 女

問7 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。あてはまる番号に○をつけて下さい（○は1つだけ）。

1. 中学校	2. 高等学校	3. 短大・高専・専門学校
4. 大学（4年制）	5. 大学院	

問8 あなたの兄弟姉妹はあなたを含めて何人ですか。義理のごきょうだいは除いてください。あなたはその中で、上から何番目ですか。また、同性のごきょうだいの中では何番目ですか。

あなたを含む
兄弟姉妹数

人

全体の中で

番目

同性の中で

番目

問9 現在、あなたのおうちに住んでいる方は、あなた自身をふくめて何人ですか。1人暮らしの方は、「1人」と記入して下さい。

人

問10 あなたの昨年1年間の収入額（税込み額）はおおよそいくらぐらいですか。あてはまる番号に○をつけて下さい（○は1つだけ）。

1. 200万円未満	2. 200～400万円未満	3. 400～600万円未満
4. 600～800万円未満	5. 800～1000万円未満	6. 1000万円以上

問11 「こうのとりの会」および「出会いサポート」に対して満足している点、不満な点、ご要望などがあれば、ご自由にお答え下さい。

結婚支援事業の発展の可能性と結婚促進力の強化
調査研究報告書

◆発行 (財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
少子・家庭政策研究所

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 6 階
TEL : 078-262-5579 FAX : 078-262-5593
<http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/index.html>

平成 20 年 3 月
